

DF411-H19

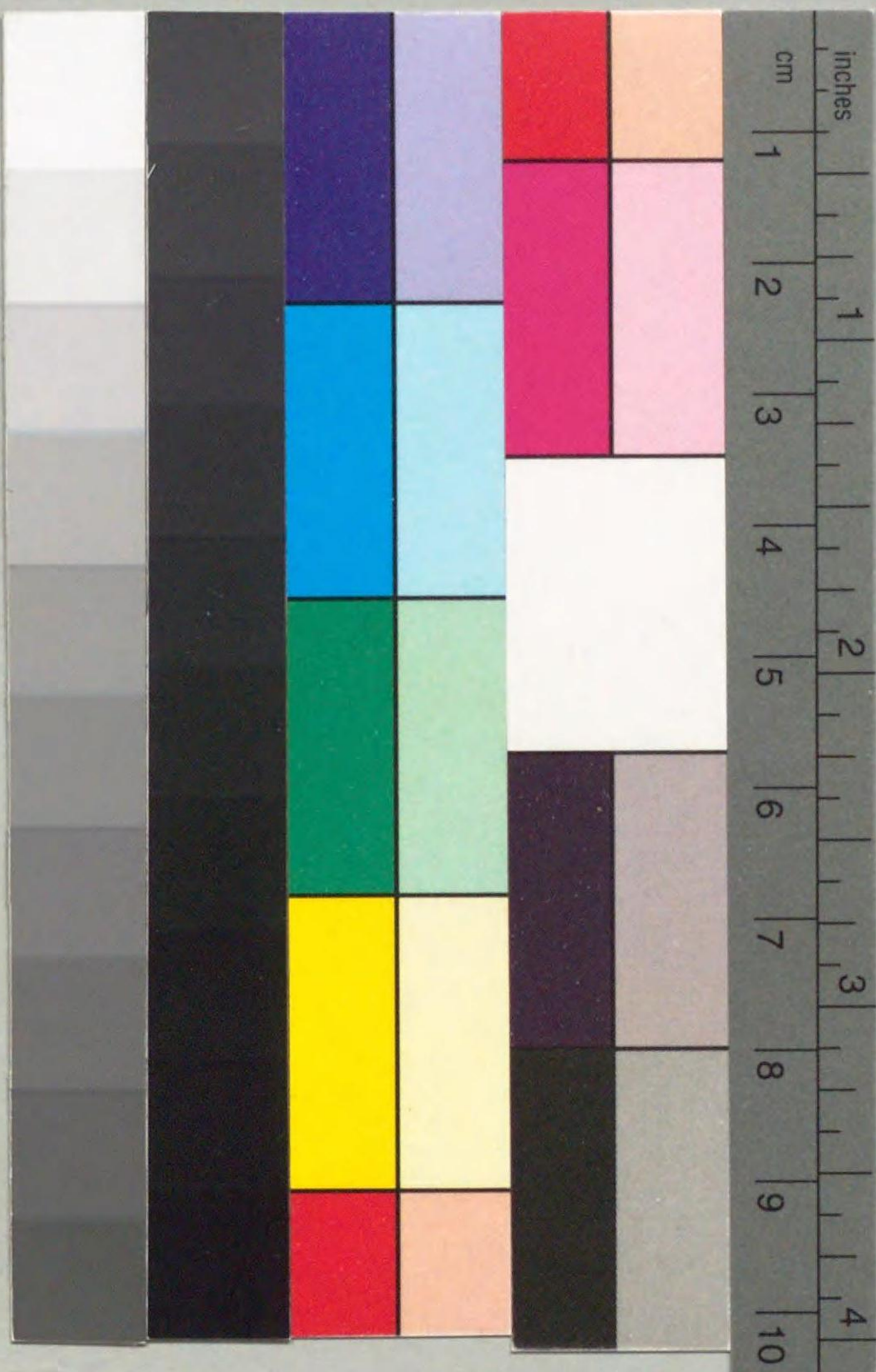


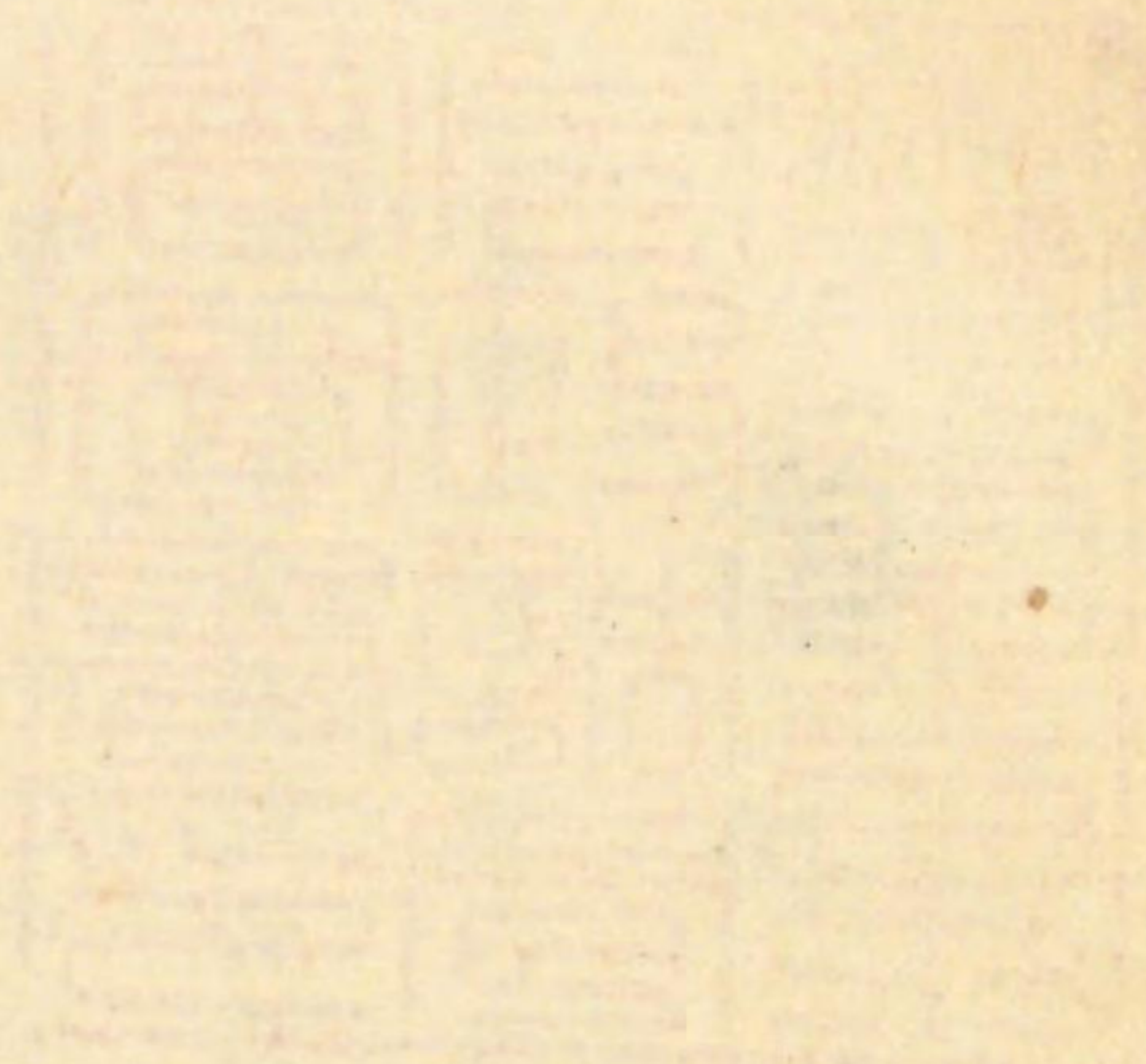
1200400255998

明治四十五年一月刊行

保險領域竝特別危險割増論

郵便貯金局



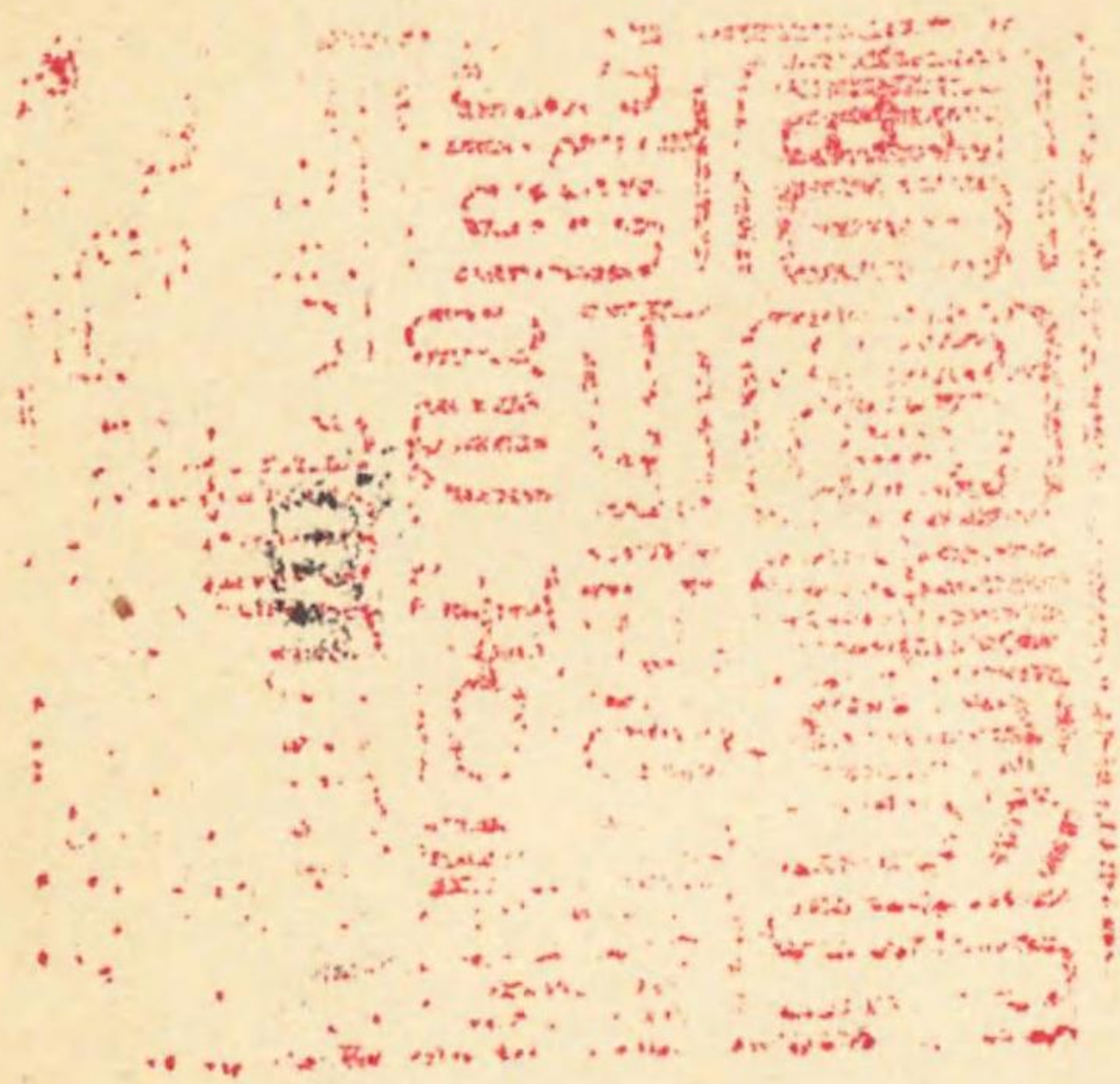


I 種
W



1200400255998

0H-1133



言

本書は一九〇六年九月伯林ニ於テ開催セラレタル第五回萬國保險「アクチユ
アソシエーション」會議報告書第一卷 (V. Internationaler Kongress für Versicherungs-Wissenschaft
Berlin 1906) 中ヨリ保險ノ領域及特別危險ニ關スル二三ノ論文ヲ抄譯シ

寫ニ代ヘ印刷シタルモノナリ

一、翻譯ハ原文ノ趣旨ヲ説明スルヲ期シ必スシモ修辭ニ重キヲ置カス

一、本書ハ郵便保險年金事業調査上ノ參考ニ資スルヲ目的トスルヲ以テ之カ轉
載又ハ複製ヲ許サス

明治四十五年一月

郵便貯金局

保險領域並特別危險割増論

目次

保險ノ領域	一頁
一、「エンミンングハウス」氏保險ノ領域	一
二、「ブライイヘル」氏保險ノ領域	一三
第一章 總論	一三
第二章 被保險者ノ見地ヨリ觀タル保險ノ領域	一五
第三章 保險者ノ見地ヨリ觀タル保險ノ領域	二一
第四章 結論	二六
特別危險ニ對スル割増保險料	二九
一、「ヘツクナー」氏特別危險ニ對スル割増保險料	二九
二、「バルメ」氏特別危險ニ對スル割増料金ノ問題	四九

第一章 「スカンディネビヤ」委員會ノ主張ニ係ル特別危険報酬ニ
關スル一般方法……………五二

第二章 生存力少ナキ者ニ對シ五會社以外ノ採用スル方法……………六三

第三章 委員會ニ於ケル其ノ後ノ研究……………六六

 第一節 歐洲外ニ於ケル危険……………六七

 第二節 被保險者ノ自殺……………七二

 第三節 梅毒……………七三

第四章 結核其ノ他ノ特別危険ニ對スル研究……………七四

 第一節 結核……………七四

 第二節 海員ノ死亡率……………八〇

 第三節 自ラ脱退シタル者ノ死亡率……………八二

第五章 危険職業……………八四

第六章 戦争危険……………八五

三、「ハンスティゼリウス」氏梅毒ニ關スル特別危険
ノ研究……………八九

023184

 第一節 材料ノ蒐集……………八九

 第二節 材料ノ範圍……………九二

 第三節 材料ノ整理……………九三

 第四節 結果ノ一……………九五

 第五節 結果ノ二……………九八

 第六節 實際上ノ結果……………一〇〇

 第七節 批評……………一〇三

保險領域並特別危険割増論 目次 終

保險領域並特別危險割増論

保險ノ領域 (其一)

獨逸「エンミンングハウス」氏述

保險ノ領域トハ保險ニ附スルコトヲ得ヘキ事故ノ範圍ニシテ此範圍内ニ於テノ
ミ保險ハ其目的ヲ達シ得ルモノトス然レトモ其範圍ハ經驗ヲ以テ定ムルコト能
ハス本問題ヲ論スルニ當リテ最モ必要ナルハ保險制度及所謂事故ノ性質ニ關シ
明確ナル觀念ヲ得ルニ在リ元來保險トハ偶然ノ事故ニ依リ生スヘキ財貨ノ必要
ニ際シ經濟的應急ノ方法トシテ相互的ニ團結シタル一ノ經濟團ナリ此定義ハ甚
簡單ナリト雖モ而モ其ノ要ヲ盡セリト信ス
所謂自己保險ナルモノハ保險ニアラス又或經濟團カ偶然ニ事故ノ發生ニ依リ生
シタル財産上ノ必要ヲ充スコトアルモ而モ其團體カ之ヲ以テ成立目的トセルニ
アラス只便宜スル處置ニ出ルニ過キサカ如キ場合之亦保險ノ觀念ヲ以テ律ス
ヘクモアラス保險ニ必要ナル觀念トシテハ事故ニ依リ生スル財的必要ヲ計量シ

得サルヘカラサルコト之ナリ若シ其計量ニシテ行フ能ハサレハ經濟的性質ヲ有セサルニ依リ這ハ吾人ノ所謂保險ト稱スル能ハサルナリ

事故ニ依ル財的需要ト之レカ満足ノ爲ニ供セラル、財的供給トノ大小ハ暫ク之ヲ措キ苟モ保險ト稱スル爲ニハ經濟的均衡ノ回復ヲ目的トセサルヘカラス然レトモ其保險ニ依リテ満足ヲ受クル者ノ如何ノ如キハ暫ク之ヲ問フノ要ナカルヘシ去レハ死亡保險又ハ年金保險カ第三者ノ爲ニ屢々行ハル、コトアリト雖モ其保險タルヲ失ハサルナリ保險ノ一般觀念ヲ論スルニ當リテハ損害ノ如キモ亦之ヲ細説スル必要ナキナリ故ニ保險ノ必要條件ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、相互的ナルコト
- 二、目的ヲ明ニシタル經濟團ナルコト
- 三、財的需要ニ應スルモノナルコト
- 四、其需要ハ偶然ニ發生スルモノナルコト
- 五、統計的ニ之ヲ計算シ得ルモノナルコト

(一) 相互的ナルコト

保險ノ觀念カ相互的ナルコトヲ要ストハ所謂相互會社ノ意味ニアラス苟モ保險

タルニハ同様ナル性質ノ原因ニ依リテ財的需要ヲ生シ之ヲ満足スルコトヲ欲スル多數人カ會同シテ存スルヲ要スルノ義ナリ蓋シ是等ノ人々ハ同様ナル利害關係ヲ有スルニ依リ一ノ組合ヲ爲スモノニシテ彼等ハ將來發生スルコトアルヘキ財的需要ニ對シ最モ少ナキ犠牲ヲ以テ其満足ヲ計ラントスルナリ換言スレハ多數合同シテ其内一定人ノ際會スル財的需要ヲ満足サントスルニ在リ此保險團ノ數ニシテ大ナレハ大ナル程財的需要ヲ生スル場合亦益々増加スヘシ然レトモ危険ノ「プロバビリテイ」ノ計算及團體員各自ノ負擔スヘキ分擔額ノ計算ハ益々其的確ノ度ヲ加フヘシ故ニ保險業ハ其花客ノ數ニシテ一定ノ數ニ達セサレハ到底繁榮ノ見込ナシ

財的需要ヲ生スル原因ニ就テ少シク述ヘンニ例ヘハ竊盜ノ行ハレサル所ニ於テハ盜賊保險ナク熱帶地方ニ在リテハ雹害保險ナシ日常用品ヲ過失ニ依リ紛失シ之カ爲ニ受クル吾人ノ損害ハ決シテ鮮ナシト云フヘカラス然レトモ此損害ヲ賠償スルノ目的ヲ以テ保險業ヲ開始シタルモノアルヲ聞カス縱令之ヲ開始スルモ到底花客ノ定數ヲ得ルコト能ハサルヘシ或種ノ事故ハ其發生頻繁ナルモ而モ其事故ニ苦シメラル、者ノ多カラサル場合アリ例ヘハ洪水地方ノ住民、雪崩ノ危険

アル谿谷ノ住民ノ如キハ事故發生ニ依リ損害ヲ受クルコト多ク之カ賠償ノ方法ニ關シ利害關係ヲ有スルコト切ナルモノアリト雖モ彼等ハ其數ニ於テ限ラレ且危險ノ餘リニ大ナルコトアルヘキヲ以テ洪水雹害保險ハ之ヲ行フコト不可能ナリ絶海ノ孤島ニシテ人口稠密ナラス或ハ大陸山中ノ小國ニシテ殊ニ鎖國ノ狀態ニ在ルモノハ種々ノ災害ヲ受ケ其被害亦時ニ大ナルモノアルヘシト雖モ所謂財的需要ヲ滿スニ足ル財産準備ヲ爲スヲ得サルナリ

所謂死亡表ハ生命保險ノ技術的基礎ヲ爲スモノニシテ被保險者ノ全部ニ就キ大數觀察ヲナスニ缺ク可カラサルモノナリ死亡表ノ作成材料ニ供シタル人命數ニ比シテ生命保險團員ノ數僅少ナレハ僅少ナル程其ノ將來ノ危險ニ對シ會社カ損失ノ補充ニ應シ得ヘキ見込ハ愈減少スルモノナリ

(二) 經濟團ナルコト

茲ニ經濟團トハ保險觀念ノ要素ヲ爲スモノニシテ其公立タルト私立タルトヲ問ハス又營利團タルト公益團タルトヲ問ハサルナリ繼續的ニ保險ノ事業ヲ行ハシニハ必ラスヤ一ノ團體ニ俟タサルヘカラス即チ料金ノ受入保險金ノ支拂ハ一定ノ期間内系統的組織的ニ行ハル、ヲ要スルモノニシテ斯ノ如キハ團體ニシテ初

メテ能クシ得ヘキナリ

或ハ經濟的企業家中ニハ其事業ヨリ得タル利潤ヲ積立テ之ヲ以テ自己ノ使用スル労働者又ハ傭人カ他日危險ニ際會スル場合其救護ニ使用スルコトアリ此場合ニ於テハ自己ノ「プロバビリティー」ヲ計算スルコトヲ得ヘク且一ノ繼續的組織的事業トシテ爲スコトアリト雖モ而モ之ヲ保險ト言ハス蓋シ保險ノ如キ經濟團タルニハ報酬ノ觀念ヲ缺クヘカラスアルヲ以テナリスノ如キモノハ救濟事業ノ範圍如何ニ大ナリト雖モ之ヲ保險ト稱スヘキニアラス各種慈善的事業ノ如キハ通常之ニ屬ス要スルニ保險ヲ以テ經濟的ナリト爲スノ意ハ慈善的ニアラス給付及反對給付ノ原則ニ依ルヲ意味ス

反對給付ノ正確ナル計量行ハレス且財的需要ノ性質上其計量行ハレサル場合ニ於テ保險ヲ爲スコトハ必ラスシモ不可能ニアラスト雖モ而モ如斯保險ハ到底永續ノ見込ナシ

保險ハ經營上正確ナル計算ナク又之ニ對スル判斷ナク且保險團體員ノ負擔ニ就キ正確ナル計算行ハレサル場合ト雖モ尙成立ノ餘地ナキニアラス

(三) 財的需要ニ應スルモノナルコト

是レ保險本來ノ目的ニシテ所謂財的需要トハ事故ニ依リテ社會ノ經濟界ニ波瀾ノ發生セル場合其波瀾ヲ排除シ經濟界ノ均衡ヲ計ルニ在リ財的必要トハ生産力減少又ハ廢滅シ又ハ所有物逸失毀損セシカ如キ場合或ハ死亡老廢疾病等ニ依リ吾人ノ活動力磨損シタルカ如キ場合ニ起ルモノナリ保險學ニ於テ財的缺乏ニ對スル觀念カ右ノ如ク解セラル、ニ至リシハ實ニ近代ノ現象ニシテ曾テ保險カ死亡生存廢疾等ノ範圍ニ限ラレタル時代ニ比スレハ大ナル進足ヲ爲シタルモノト言フヘシ

(四) 需要ノ偶發的ナルコト

經濟上ノ意味ニ於テハ其ノ發生アルヘキコトヲ豫期シ其ノ發生ノ原因ヲ明ニシ得ルカ如キ場合ニアリテモ吾人カ其ノ事故ヲ支配シ得サル限り之ヲ偶發ト稱スルモ差支ナキナリ其ノ原因結果ニ就テ何等明確ナル觀念ヲ有セス且吾人カ之ヲ支配シ得サル如キモノカ偶發ノモノトシテ人ノ觀念ニ上ルコト勿論ナリ財的需
要ヲ生セシムル原因ハ偶發的ニシテ且不定ナラサル可ラス而シテ其ノ事故ハ利害關係者又ハ第三者ニ依リテ支配セラレサルコトヲ要シタトヘ人ノ支配ヲ受ケ得ルモノナリトスルモ其事故ノ發生カ支配シ得ル者ニ取リテ經濟上不利ナルモ

ニタルヲ要スルナリ要スルニ財的需要ノ不定ナリトハ事故カ報償ヲ受クル個人ノ注意作用ニ依リテ生シ得サルカ如キ場合ヲモ包含スルモノニシテ其ノ任意作用ヲ行ハレシメサルモノハ自然力タリ法律力タルコトアルナリ尙偶發トハ發生スルコト明ラカナルモ其ノ時期不明ナル場合ヲモ含ム

人カ災害ニ因ラサル疾病ニ罹リ或ル一定年齢後生存スルコトモ尙偶然ナルヤ否ヤニ就テハ一般學理論トシテ議論アルヘシト雖モ保險ノ觀念ニ於テハ偶然トシテ差支ナシ

第三者ニ依リテ事故ノ發生スルハ尙保險ノ受益者ニ取リテ之ヲ偶發的ナリト見ルヲ妨ケス保險ノ實際ニ於テハ斯ク事故ヲ發生セシメタル行爲者ヲ穿索シ得ルモノナルコトヲ要ス其穿索ニシテ愈困難ナレハ會社ノ義務履行問題ヲ解決スルコト亦愈困難ナリ

(五) 事故ハ統計的ニ之ヲ計算シ得ルモノナルコト
事故ヲ計量シ得ルトハ從來ノ計表ニ依レハ事故ノ「プロバビリティー」ヲ正確ニ算出シ得ルヤ否ヤニアラスシテ事故カ其性質上發生ヲ統計的ニ豫測セラル、モノナルコトヲ要スル義ナリ若事故ニシテ其性質上將來發生ノ度數程度ニ就キ何等ノ

豫想ヲモ爲シ得サラシムル如キモノナルトキハ保險ハ之ヲ行フモ到底成効ノ見込ナシ

暴風雪崩降雹旱魃地震噴火等ノ自然界ノ現象ハ氣象學地質學ノ研究材料トナリタリト雖モ其ノ發生度數及程度ニ就キテハ今日尙未タ之カ「プロバビリティー」ノ計算ヲ爲シ得ル程度ニ學問ノ發達ヲ見ス只是等ノ自然現象ニ依ル財的需要ト雖モ將來幾百年ノ後ニハ之レヲ測定シ得ルニ至ルヤモ未タ知ルヘカラス即チ人智ノ程度發達進歩シ是等自然現象ノ發生スル回數期間地方及強弱ヲ統計的ニ豫測シ得ルノ時期無シト言フヘカラサルノミ

「プロバビリティー」計算ニ就キ特ニ困難ヲ感スルハ其ノ事故發生ノ原因ニ人力ノ競合スル場合ナリトス此ノ種ノ事故ハ文化ノ進歩ニ依リテ其發生程度ヲ異ニスルモノニシテ一定ノ時處ニ於テ得タル計表ヲ他ノ國又ハ將來ノ現象ニ適用シ得サルヲ以テ之レニ對スル保險ハ如何ニ必要ナリトスルモ之カ實行ハ甚タ困難トスル所ナリ

上述ノ如ク各種ノ要件ヲ具備スル場合ニアラサレハ保險ヲ實行スルコト能ハサルモノナルカ故ニ吾人ノ生命ニ關スル保險ノ種類モ亦自ラ限リアリ想フニ死亡

保險、生存保險、一時拂保險、年金保險等ノ如キハ生命保險ニ關スルモノ、幾ント全部ト見テ六過ナカラシ然レトモ近世ニ至リ盛ニ數多ノ保險種類ノ行ハル、ヲ見ル殊ニ軌近新保險方法ノ發見セラル、アリ而モ其ノ將來ノ極メテ有望ナルモノ鮮ナカラス是等保險中ニハ前記要件ノ一二ヲ缺クモノナキニアラス果シテ然ラハ吾人ハ更ニ一考スル所ナカルヘカラス

一、需要甚大ニシテ且痛切ナルモ此ノ需要ニ應スル保險以外ノ方法ニ依ルコト困難ナル場合ニアリテハ縱令其ノ費用大ナリトスルモ保險的手段ニ依ルノ外途ナキナリ如斯保險ニ於テ要件ノ一二ヲ缺クコトアルモ夫ハ合理的經驗上ノ智識ニ依リ豫メ注意シテ其缺點ヲ避ルコトヲ得

二、保險ナル觀念ハ經濟上保險ノ意味ヲ有セサル場合ニ用ヒラル、モノニシテ保險ノ本質ヲ有セサル投機的事業ノ如キモ屢々保險ヲ以テ呼ハル、コトアリ

第一ニ屬スルモノニ就キテハ世人ハ多年實際上ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ中或ルモノ、成功シタルヲ見テ理論上ノ缺陷如何ヲ顧ミサルニ至レリ如斯保險ノ多數ハ信賴スルニ足ルヘキ「プロバビリティー」計算ヲ有セス而モ多年ノ經驗上此ノ缺陷ニ對

シテ取ルヘキ技術的手段ヲ發見シ以テ失敗ナキヲ得タルモノトス尙被保險者ノ方面ニアリテモ保險ノ必要ヲ感スルコト大ナル爲ニ會社カ準備金トシテ要スルヨリモ遙ニ以上ノ拂込ヲ爲スヲ辭セサルコトアリ多數ノ損害保險ハ實ニ如斯クシテ今日ノ繁榮ヲ見ルニ至レリ蓋シ將來發生スヘキ財的需要ヲ正確ニ豫知シ學理的ニ此需要ニ應スルコトハ甚望マシキ所ナリト雖モ經驗上ノ結果ニ依レハ正確ナル死亡表ヲ有スル生命保險ニ比シテ反テ各種ノ損害保險ノ繁榮セル事實ヲ示セリ例ヘハ火災、運送、海上、硝子、水害、疾病、弱體、家畜、電害、保險等是ナリ凡ソ此ノ種保險ハ事故發生ノ度數程度等ニ應用スヘキ「プロバビリテイ」ノ計算甚困難ナルモノニシテ事故發生ノ不規則ナルコトハ事業創設以來已ニ豫期セル所ナリ從テ其料金モ自ラ高カラサルヲ得スト雖モ文明ハ是等危險ノ發生ニ因ル損害ヨリ免カレントスルノ願望ヲ強烈ナラシムルヲ以テ契約者モ亦勢ヒ多數ニ上ルニ至レリ獨逸ニ於ケル此方面ノ發達ハ最近十數年間ニ特ニ著シク今ヤ他種ノ保險ニ比シテ毫モ遜色ナキナリ

第一、第二ノ區別ハ一ハ保險ノ効用大ナルカ爲ニ其利用ヲ擴張シタルモノニシテ他ハ單ニ保險ノ亂用ナリ後者ノ多クハ縱令設立者ニ惡意アルニアラスト雖モ保險ノ本質ニ通セサルカ爲メ保險主義ノ假面ノ本ニ誤リタル事業ヲ遂行スルモノト謂フヘキナリ然レトモ此ノ第二種ニ屬スル保險ト雖モ若シ適當ニ實際的方法ヲ採用スルニ於テハ上述損害保險及生命保險ト同様ナル發展ヲ遂ケ以テ世ヲ益スルニ至ルコトナリシトセス此ノ第二種ニ屬スヘキモノハ (一) 暴風損害保險 (此種保險ニ就キテハ財的需要ノ統計ヲ取ルコト困難ナリ而モ文化ノ國民ハ切ニ其ノ必要ヲ感シツ、アリ) (二) 信用保險 (三) 失職者保險 (四) 機械保險 (五) 母體保險 (此ノ種保險ニ於テハ危險カ偶然ノ觀念ヲ含マサル場合ニシテ而モ財的缺乏ヲ生スル如キ場合ヲ保險ス) 等ナリ

近時此ノ種ノ事業ハ漸ク勃興ノ氣運ニ際會シ保險ノ名目ヲ冠シテ開始セララル、ヲ見ル素ヨリ經濟的ナル觀念ヲ缺如シ數學上「プロバビリテイ」ノ的確ヲ期スルコト能ハス只財的缺乏ニ對スル救濟ヲ爲サントスルノ目的ニ出ルモノ多キヲ以テ一度事業ニ着手シタル後復ヒ立ツ能ハサルニ終ラサルモノ少ナシ双生兒保險、離婚保險、詐僞取財保險、選舉保險、屋根保險、家屋保險、流出保險、鐘鈴保險等皆其ノ例ナリ

保險事業ノ活動範圍ハ甚廣シ而モ保險カ斯ノ如ク廣大ナル範圍ニ於テ行ハル、

コトハ素ヨリ人類ノ幸福ナリ然レトモ此ノ範圍ニハ一定ノ限界アルモノニシテ之ヲ超ユルトキハ失敗ノ厄ニ逢フヲ免カレサルモノナリ

保險ノ領域 (其二)

獨逸「ブライヘル」氏述

第一章 總論

保險活動ノ範圍ヲ決定センコトハ容易ノ業ニアラス蓋シ此ノ問題ハ時代ニ於ケル學術技藝發達ノ程度如何ニ依リテ答フル所自ラ異ナルヘキヲ以テナリ國民經濟界ノ或ル部分ニ於テ保險開始ノ必要ヲ觀取スルハ容易ナレトモ此保險組織ニ關シ正當ナル方法ノ判明セサル限り之カ實行甚タ困難ナリ保險ノ領域問題ハ之ヲ學理ニ依テ判斷スルノ必要アルト同時ニ實際上ノ立脚地ヨリモ之ヲ決セサルヘカラス此ノ實際的方面ノ助力ハ惟フニ之ニ依リテ保險基礎要綱ヲ定メントスルニ在ラスシテ實際ノ必要方面ニ於テ之ヲ論セントスルニアリ實際的見地ヨリ本問題ヲ見ルニ當テハ先二種ノ觀察點ヨリセサル可カラス一ハ保險者ノ方面ヨリシ他ハ保險契約者ノ方面ヨリスルモノ之レナリ然レトモ保險者ト被保險者トハ相對立スル關係アルト同時ニ二者相合致シ不可離ノ關係ニ立ツモノナリサレ

ハ保險學者ハ此ノ別個ノ方面ヨリ觀察スルヲ避ケ契約者ト保險者トヲ合一シテ觀察スルコトアリ而シテ先保險領域ノ問題ヲ論スルニ當テハ第一ニ模範的保險事業ハ學理ヲ基礎トシ此ノ上ニ建設セラレタルモノナルコトヲ觀取スルヲ要ス蓋シ正確ナル統計ヲ以テ保險成立ノ基礎トシ之ニ依リテ保險費用ニ要スル料金ノ計算ヲ爲スヲ以テ保險經營ノ理想トス此ノ學理的基礎ヲ全然無視スルニ於テハ成功ノ見込ナキモノナルヤ論ナキヲ以テナリ然ルニ保險經營ノ實際ヲ見ルニ多數ノ保險事業ハ其ノ經營ノ最初ヨリ斯ル統計的基礎ヲ有スルモノニアラス寧ロ事業ヲ行フニ當リ歲月ト共ニ實際上ノ經驗ヲ獲得シ之ヲ材料トシテ事業經營ノ基礎ヲ作製スルヲ常トス

生命保險ハ此ノ點ニ關シ各種ノ保險中獨特ノ位置ヲ占ムルモノナリ蓋シ生命保險ノ基礎タル可キ統計的計算ハ一般人口統計等ニ依リテ事業着手以前ニ於テモ比較的詳密ニ行フコトヲ得ルカ故ニ他ノ保險ノ如ク實際的經驗ヲ俟テ然ル後事業經營ノ基礎ヲ作成スルノ要ナシ然レトモ保險ノ必要急且大ニシテ而モ其統計的基礎ノ正確ナルモノヲ存セス只事業着手後ノ經驗ニ基キテ比較的信頼スヘキ數理上ノ基礎ヲ得ントスルカ如キ場合ハ先慎重ナル態度及計算ヲ以テ之カ經營

ニ着手スヘキナリ公設勞働保險ノ歴史ノ如キハ最モ顯著ナル一例ヲ示スモノト謂フヘシ

余ハ今保險ノ倫理的社會的價值ヨリシテ本論ノ解説ニ入ラントスルニ當リ先保險者ノ立脚地ト契約者ノ立脚地トニ分ツテ少シク議論ノ歩ヲ進ムヘシ

第二章 被保險者ノ見地ヨリ觀タル保險ノ領域

契約者ノ見地ヨリ將來ノ事故ニ依リ生スル財的補充ノ要求ヲ滿スヘキ保險ノ効果如何ヲ見ルニ人ノ死亡ハ必ス免カル可カラサル現象ニシテ茲ニ生命保險ノ發生ヲ促シ疾病及災害ニ依ル一時的ノ勞働不能ハ又人生ノ日常時ナルヲ以テ此ノ事故ニ依リテ生スル財的要求ヲ滿ス爲ニ疾病災害保險アリ勞働能力ハ生涯不變ニ存スルモノニアラス是ニ於テカ勞働力減退ニ依リテ生スル財的要求ヲ滿ス爲ニ弱體及養老保險ノ必要ヲ生ス物ヲ領有スル時ハ自然力ニ依リ常ニ之カ毀損滅失ノ慮アリ殊ニ火災ニ依ル毀滅ハ人ノ最モ懼ル、所ニシテ古來火災救護組合ノ存セシコトモ人ノ能ク知レル所ナリ運送ノ途上ニ於テ貨物ノ流失又ハ損傷スルコト亦日常視ル處ニシテ之レ運送保險カ往時ヨリ行ハル、所以ナリ農產物カ降

雹ノ爲ニ害ヲ蒙リ家畜カ死亡災害惡疫等ニ依リテ苦シメラル、コトハ臆テ農業保險ノ發生ヲ促シタル所以ナリトス

上記ノ事故ニ比スレハ其ノ發生稀ナリト雖モ其ノ程度強烈ナルモノハ地震洪水等ノ天變地異ニ依ル損害ナリトス或ル場所ニ於テハ此ノ種ノ天變地異カ頻々トシテ相亞クコトアリ而モ尙上述ノ事故ニ比スレハ其ノ發生度數遙ニ少ナシト云フヘク從テ斯ル事故ニ對シテ廣ク社會一般ノ救濟制度トシテ保險ヲ創始スルノ必要アルヲ見ス學者ハ此等ノ現象ヲ以テ保險領域中ニ數フルヲ得スト爲ス蓋シ被保險者ノ多數ヲ得ルコト能ハサルニ非スシテ其ノ發生カ稀ナルコト及其損害ノ特ニ大ナルモノ、ミ保險ノ必要ヲ感スルニ過キサルニ依リ危險遭遇ノ「プロバビリテイ」少ナキモノカ平素比較的大金ヲ投シテ不時ニ備フル如キハ人性ノ之ヲ望マサルヲ以テナリ信用保險ノ問題ハ近時漸ク學者ノ論スル所トナレリ此ノ保險ハ支拂能力ナキ商人ニ對シ貨物ヲ信用シ其ノ損失ニ對スル賠償ヲ目的トシテ保險ヲ行フモノニシテ其ノ本質ヨリ論スレハ天災保險ト根本的ニ異ナルモノアリト雖モ而モ類似ノ點少カラズ保險ヲ爲スヲ以テ有利ナリトスル商人ハ當該危險ニ際會スル虞多キ地位ニアルモノニシテ其ノ他ニ對シテ事故ノ發生稀有ニシ

テ且輕微ナルヲ以テ人性自然ノ理トシテ保險ノ必要ヲ感スルコト前者ノ如ク甚シカラズ而シテ前者即チ保險ノ必要ヲ感スル者ハ比較的多數ニ達スルカ如シ而モ信用保險ノ實行カ技術上困難ナル所以ハ保險者ノ課徴スヘキ保險料ノ過大ニ基因セスンハアラス

保險學者ハ保險實行ノ可能ナル要件トシテ危險ノ程度カ契約者間ニ於テ著シク異ナルナキヲ要ストナス蓋シ保險損害ノ負擔又ハ賠償價格ノ分擔ハ利害關係者間ニ危險ノ程度大差ナキ場合ニ於テノミ期待スルヲ得ヘク若シ然ラスシテ危險ノ程度異ナルモノアルトキハ其ノ特ニ懸隔アル危險者ニ對シ特別料金ヲ課スルノ要アルヲ以テナリ此ノ問題ハ保險カ如何ナル範圍ニ於テ如何ナル領域ヲ有スルカノ問題ヲ論スルニ當リ最モ必要ナリ保險ノ需用ハ財的欲望ヲ生セシムル事故カ日常生活ニ於テ反覆生起シ且保險ノ分配カ公平ニ行ハル、場合ニ於テノミ生スルモノナリ

生活狀態ノ移動ハ保險ニ對スル需要ニ變化ヲ生ス例ヘハ勞働者失職ノ場合ニ於テ其ノ新職業ヲ受クニ至ル迄日常賃銀ノ一部ヲ賠償供給スル失職保險ノ如シ此ノ保險ヲ社會一般ニ普及セシムルニ就テハ組織上幾多ノ困難アリト雖モ而モ工

業ノ發達ト共ニ著シキ進步ヲ示セリ經濟界ニ表ル、勞働需要ノ日常の變動ノ外
 勞働市場ニ至リテハ年々勞働ノ需要ニ回期的變動アリ後者ノ場合亦需要ノ正常
 的變動ト見ルヲ得ヘシ損害保險ノ方面ニモ近時此ノ種ノ新保險制度ヲ見ルニ至
 レリ只現今ニ在リテハ之カ技術的基礎ヲ確立スルノ方法備ハラサルノミ大都市
 ニ於テ水管ヲ二階三階ノ高キ處ニ迄敷設スル時ハ氷凍其他ノ原因ニ依リ鐵管ノ
 破烈ヲ來シ其結果家屋ニ大ナル損害ヲ與フルコト尠ナカラス又或ル構造ヲ有ス
 ル家屋内ノ都市住民カ盜難ニ逢フコトモ常ニ見聞スル所ナリ猶此ノ盜賊保險水
 管保險ハ生活狀態ノ變化即チ住宅構造ノ現代の特長ニ對スル反映ト見ルコトヲ
 得責任保險ハ義務的災害保險ノ實施ニ依リ正ニ其ノ痕跡ヲ失ハントスト雖モ從
 來ハ特別ノ形式ヲ以テ發達シタル保險ノ一種ナリ然レトモ災害保險ノ加入ヲ履
 行セサルモノニ取リテハ尙責任保險ノ必要ナシト云フ可カラス新民法ノ發布ニ
 依リ傭主又ハ動物所有者ノ責任ヲ重クシタルコトハ保險會社ヲシテ公衆ニ對シ
 責任保險ノ必要ニシテ且有益ナルコトヲ勸告スルノ好機會ヲ與ヘタリ近時責任
 保險ノ問題ハ監督委員會ノ說明ニ依リテ益々其ノ意味ヲ明ニセラレタリ要スル
 ニ以上ノ實例ハ保險ノ新種類ヲ創設スルコトカ單ニ會社側ニ於ケル企業心ノ結

果ノミニアラス寧ロ社會ノ經濟狀態ヨリ生スル需要ノ新傾向ニ促サレテ生スル
 ニ至ルモノ多キ所以ヲ察セシムルニ足ルヘシ於此吾人ハ斯ル新保險事業カ實際
 如何ニセハ組織セラルヘキカノ問題ニ移リテ更ニ詳説スル處ナカル可カラス
 凡ソ保險ハ道德上ノ價值ヲ有シ兼ネテ又社會的ノ價值ヲ有スルモノタルノ一事
 ハ被保險者カ事故ニ依ル損害ノ苦痛ヨリ救ハレ或ハ生命保險ノ如キ一定ノ時ニ
 於テ生活資料ヲ供給セラル、コトニ依リテ説明スルヲ得ヘシ
 保險ハ不當利得ニ非ス投機ニモ非スシテ科學的地盤ヲ有スル一種ノ經濟活動ナ
 リ然ラハ保險ヲシテ着實ナル任務ヲ遂ケシムル爲メニハ如何ナル注意ヲ要スヘ
 キヤ之レ研究ノ價值アルモノナリ例ヘハ保險ノ保護ハ停止期間ニ依リテ制限セ
 ラル、場合少カラス凡被保險者ヲシテ損害ノ少ナクモ僅少部分ヲ負擔セシムル
 コトハ保險原理トシテ尊重スル必要アルモノナリ斯クシテ投機的利益ヲ保險ヨ
 リ受クルコトヲ防止スルト同一ノ精神ハ個々ノ場合ニ當リ如何ナル範圍ニ迄保
 險ノ申込ニ應スヘキカヲ決定スルニ當リテ應用セラルヘキモノナリ保險ニ對ス
 ル需要カ廣ク一般的ニ存スル場合ト雖モ保險者ハ其ノ保險金額ヲ無制限ニ高カ
 ラシムヘキニ非ス詳言スレハ保險金ノ限度ハ需要ノ程度ヲ以テ限リトスヘキナ

リ此ノ原則ハ損害保險ニ在リテハ被保險物體ノ價格ニ依リテ容易ニ實行スルヲ得ヘシ蓋シ危險發生ノ場合被保險者カ損失ノ一部ヲ分擔スル事ハ保險ノ亂用ヲ防止シ被保險者ノ懈怠ヲ促スコトナキヲ得ルモノニシテ要スルニ保險ノ最大限度ハ被保險物ノ課稅價格又ハ市價ヨリ幾分低キ所ニ止ムルヲ要ス多數ノ生命保險ニ於ケルカ如キ所謂金額保險ニ對シテハ此ノ法則ヲ行フニ由ナキナリ於是生命保險ノ如キニ在リテ保險ニ對スル需要ノ強弱ヲ確認スルコトハ倫理的觀察ヨリシテ甚タ必要ナル處ナリ例ヘハ小兒保險ノ如キ之ヲ許スニ於テハ保險ノ惡用ヲ促スモノトシテ之カ實行ヲ禁止スヘシト爲ス者鮮ナカラス小兒保險禁止論者ノ主旨ハ何人モ之ヲ是認スル處ナリ故ニ小兒保險ヲ行フニ當リテモ保險金額ハ最モ注意シテ一定ノ制度ヲ超ヘサラシムルコトヲ要ス即チ從來疾病金庫カ死亡ニ當リ給與シタル金額位ヲ限度トス可ク假リニ此ノ限度ヲ超ユル場合ト雖モ死亡ニ依リ實際生スル財産的損失ヲ填補スルニ足ル金額ヲ以テ限度トセサル可カラス要スルニ以上述フル所ハ被保險者ノ見地ヨリシテ述ヘタルモノニシテ保險業者ノ實際的方面ニ移リテ論スルトキハ尙數多ノ研究問題アリ

第三章 保險者ノ見地ヨリ見タル保險ノ領域

保險需要ノ見地ヨリシテ保險ヲ創設スルニ足ル結論ニ達シタル場合ト雖モ尙之ヲ實際事業トシテ經營シ得サルコトアリ相互組織ニ依ルカ株式組織ニ依ルカハ比較的枝葉ノ問題ナリト雖モ業務執行ノ方法カ確實ナル實務的基礎ヲ有スルヤ否ヤノ問題ハ本章ニ於テ先説明ヲ要スル所ナリ所謂實務的基礎トハ一ハ事故發生カ明確ニ認識セラレ一ハ保險者カ負擔スル義務ノ範圍カ容易ニ確認セラレ得ルコト之ナリ

損害保險ニ在リテハ危險ノ發生セシヤ否ヤノ論争ニ付判官ヲ煩スカ如キ必要アル場合ハ甚タ多カラス然ルニ責任保險ノ如キニ至リテハ此種ノ確認手續ハ殆ント不可決ノ條件タルカ如キ觀アリ或ハ又事物ノ性質上假令判官等ヲシテ確認手續ヲ爲サシメントスルモ而モ甚タ困難ナルコトアリ例ヘハ失職保險ノ場合ニ見ル所ナリ之勞働者カ或ル原因ノ爲メニ其ノ職業ヲ失ヒタル場合彼カ果シテ新職業ニ從事シ得ルヤ否ヤヲ知ルコト困難ナレハナリ去レハ苟モ勞働者ノ失職保險ヲ行ハントセハ之ニ隨屬シテ勞働紹介所ノ設備アルコトヲ要ス蓋シ被保險者カ

何時迄其ノ紹介セラレタル労働ニ従事スルヲ要スルカノ問題ハ保險ニ於テ決シテ輕視スヘカラス左レハ失職保險ハ或ル程度ニ於テ官廳主義ヲ加味スルヲ要ス多數ノ小職業組合ニ於テ之ヲ行フコトヲ要ス蓋シ政府ハ職業供給ノ能力ヲ有セス之カ爲メニハ寧ロ職業組合ヲ以テ最モ適當トス殊ニ不法ナル原因ノ存セスシテ職業ヲ失ヒタル労働者ノ場合ニ其ノ然ルヲ視ル「ストライキ」又ハ暴動ノ結果職業ヲ失フニ至ル場合ニ備フル爲メ彼等カ相互的ニ保險ヲ開始スルコトアリ又傭主ノ側ニ在リテハ「ボイコット」ノ及ホス損害ヲ顧慮シテ相互救済ノ道ヲ講スルコトアリト雖モ是等ハ未タ以テ繼續的ノ保險ト稱ス可カラス寧ロ單ニ一種ノ相互救済制度ニ過キスト云フハシ

廣義ニ於ケル生命保險ノ中ニハ私營保險ニ適セサル一種ノ保險アリ弱體保險及老廢保險ハ即チ其ノ適例ニシテ如斯保險ニ於テ危險事故ノ發生ニ當リ果シテ發生シタリヤ否ヤヲ決スル上ニ種々ナル困難ニ逢着セスンハアラス弱體養老年金保險ノ如キ即チ之ナリ

此ノ種ノ保險ニ於テハ世人ノ之ニ對スル要求顯著ナリト雖モ料金算出ノ基礎ト爲ス可キ正確ナル統計上ノ數字ヲ得ルコト能ハサルノミナラス果シテ從事不能ノ事實存スルヤ否ヤヲ決定スルコト困難ナルヲ以テ私營保險ニアリテハ未タ此ノ方面ニ於テ成功シタルモノアルヲ聞カス換言スレハ此ノ種ノ保險ハ國家事業又ハ公共事業トシテ之ヲ行フ場合ニ於テノミ好結果ヲ來タス可ク若シ強テ私營事業トシテ之ヲ行ハントスレハ必スヤ特別ナル組織ヲ以テスルヲ要スルナリ信用保險抵當保險其ノ他財産毀滅ニ對スル保險ニ於テモ被保險者カ損害ニ對シテ如何ナル程度迄責ニ任スヘキヤ或ハ如何ナル點ニ於テ必要ナル注意ヲ欠キシヤ或ハ事態自然ノ結果トシテ事故發生シタルヤヲ決定スルコト頗ル困難ナリ賃借保險訴訟費保險ニ於テ亦然リ

賠償額ノ決定上困難アル場合ニアリテハ營利的企業家ノ立場トシテ其ノ保險ヲ行フコト困難ナリ之カ適例トシテ弱體保險ヲ舉クルコトヲ得ヘシ身體耗弱ノ程度ヲ定ムルカ如キハ容易ナラサル業ナリ通常ノ損害保險ニ於テモ損害ノ見積算ハ保險ノ體様ト損害ノ目的ト離ル可カラサル關係ニ於テ存スルトキ即チ保險ノ體様カ有形ナル一ノ獨立體ヲ爲サ、ル場合ニ於テ困難ナリ例ヘハ盜賊保險ノ如シ電害保險ノ如キモ亦其ノ一例ニシテ損害ノ降電ヨリ直接ニ起リタル部分ト早被濕潤虫害等ニ依リ其ノ度ヲ強メタル部分ト區別スルコト困難ナリ天變地異

ニ對スル保險ノ多クハ常ニ此ノ種ノ不便ニ遭遇ス暴風ニ依ル屋根ノ損害カ單ニ暴風ノミヨリ生シタルヤ或ハ之レヨリ先被保險者ニ不注意アリテ屋根ノ修繕ヲ怠リシカ爲ニ遂ニ損害ヲ生スルニ至リタルヤ否ヤヲ決スルコト事實不可能ナルコト多シ斯ルカ故ニ料金ハ不當ニ昂騰スルヲ以テ注意深キ被保險人ニ取りテハ危険損害ニ比シ料金ノ不當ナル過超ヲ呈スルノ結果ヲ生スルコトアリ、事故發生ノ事實及損害額決定ノ二點ハ企業家ノ立場トシテ或ル種ノ保險ヲ創設シテ克ク其ノ目的ヲ達スヘキヤ否ヤヲ決スルニ有力ナル一材料タルモノニシテ此ノ種ノ決定不可能ナル場合ニハ曩ニ述ヘタル統計的基礎ヲ確立シ得サルニ依リ保險ヲ行フコト難キト同様ニ或ハ寧ロ其レ以上ニ保險實行ノ困難アルモノナリ保險ニシテ統計基礎カ會社ノ經驗ニ基キ作製セラル、迄ハ其料金ハ極メテ杜撰ナルモノナリ經濟狀態ノ發展ニ基キ社會ニ或ル種ノ保險ノ必要ヲ感シタルトキニ行ハル、モノハ相互組織ノ保險ナリ此ノ場合保險者ハ必要ニシテ且充分ナル料金ヲ徴スルコトヲ得ヘシ電害保險ノ如キニ在リテ其然ルヲ見ル然レトモ單ニ社會ニ於テ或ル保險ノ需要アリトスルモ必スシモ其ノ保險カ相互組織ヲ以テ實行ニ着手スルモノト限ラサルナリ蓋シ曩ニ述フルカ如ク事故發生又ハ損害額

ノ決定困難ナル場合ニ在リテハ假令相互保險ト雖モ之カ實行ヲ難シトス斯ル場合ニ於テ保險企業家ハ大ナル相互會社ヲ設立セントスル意思強カラサルハ經驗ノ徵スル所ナリ寧ロ斯ル特種ノ困難アル保險事業ニ就キテハ低額料金ヲ以テ株式組織ト爲サントスルヲ通常トス斯ル組織ノ保險ニ在リテ充分ナル經驗ヲ積マサル間ハ可成高キ料金ヲ課スルモノニシテ斯クテ株主ハ配當金ノ多キコトニ着目スルノミナラス危険ナル職業ニアリテハ企業利得ノ大小ハ常ニ危険ノ大小ニ比例スルモノナリ然レトモ新會社ノ得タル純益ヲ配當金トシテ用ヒラルヘキモノナリトナスハ誤レリ職業ノ危険ハ事業者着手後數年ヲ經タル後初メテ發生スルモノナルカ故ニ其ノ初年ニ當リテハ寧ロ資金ノ積立ニ努力セサル可カラス損害額ノ決定ニ困難アル保險ニ在リテハ危険ニ比シ一層高キ料金ヲ課スルニアラサレハ事業ヲ行フ能ハサルナリ而シテ斯ル高キ料金ヲ以テ保險ヲ行フ會社アル場合ニ資本家カ其ノ會社ノ保險契約者トナルヘキヤ否ヤハ自ラ其ノ個人ノ性質見解ニ依リテ決スヘキナリ此ノ點ニ於テモ株式會社ト相互會社トノ間ニ反對點ヲ有ス理論トシテハ相互主義ハ甚タ適當ナルニ似タリト雖モ實際ニ當リテ今述ヘタルカ如キ困難ヲ有スル新保險事業ヲ行フニハ株式主義ヲ以テスルコト通常

ナリ

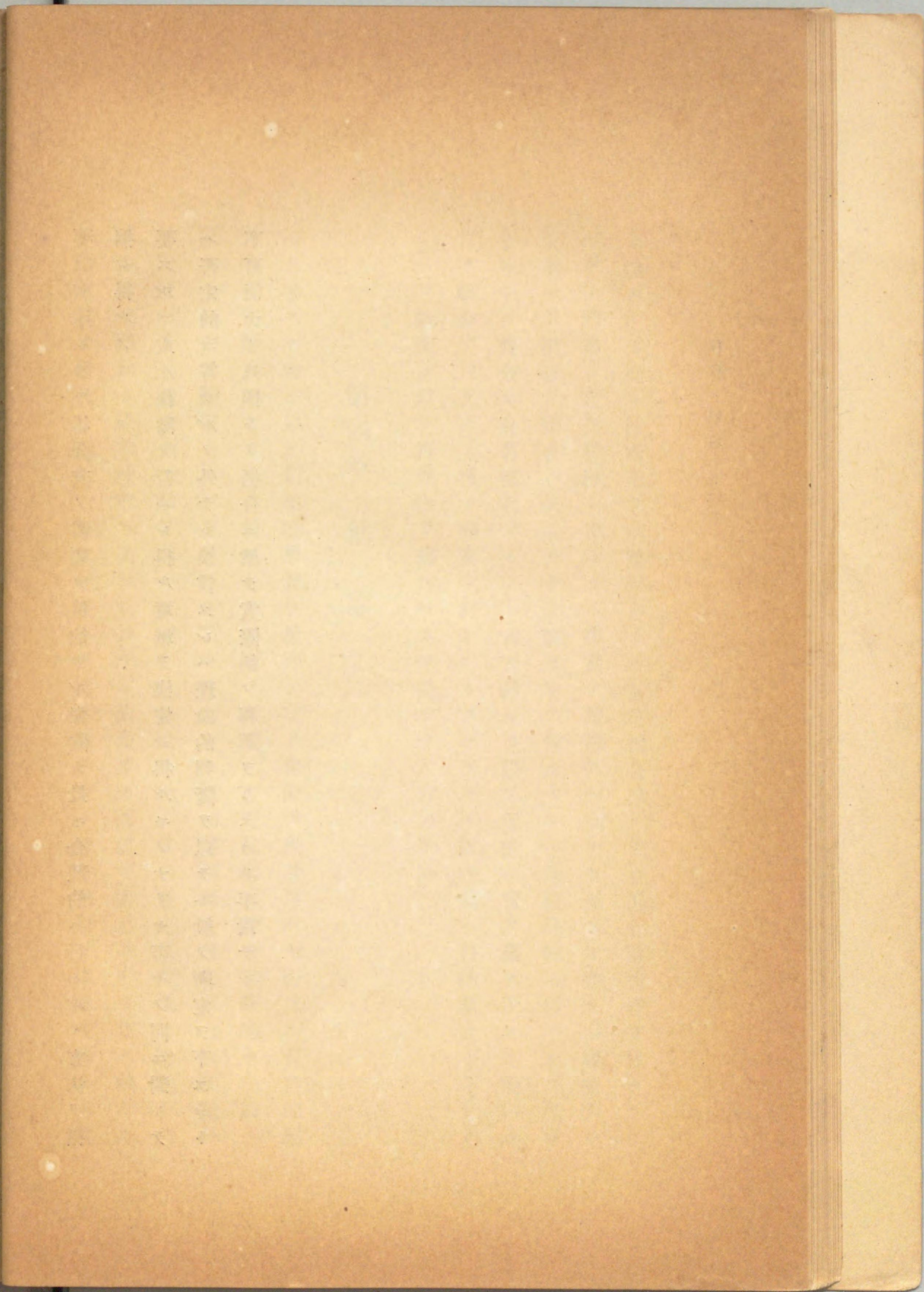
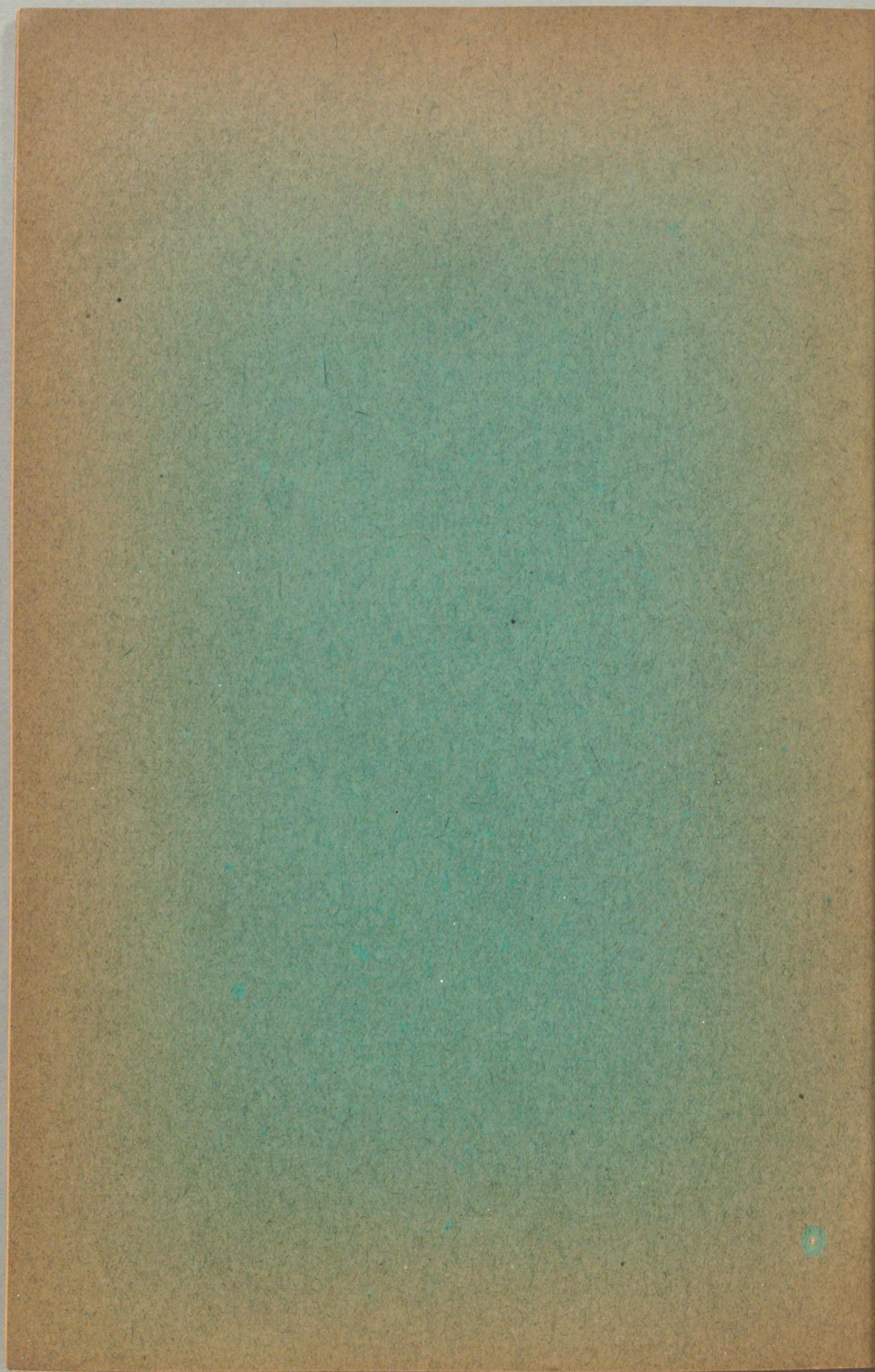
上述スルカ如キ技術上ノ困難ハ小ナル職業組合又ハ地方的保險組合ヲ以テスルトキハ容易ニ之ヲ排除シ得ルコト事實ノ證明スル所ナリ然リト雖モ一難去テ一憂來ル小組織ノ組合ハ又大ナル缺點ヲ有ス何トナレハ危險分配ハ行ハレス且ツ金庫中ノ資金ヲ有名無實ノモノト爲シ易キヲ以テ保險ノ實ヲ擧クルコト能ハス只小組合ヲ以テ此ノ種ノ保險ヲ行ハントスルトキハ組合間ニ目的組合(Zweckverbande)ヲ組織シ以テ再保險ヲ爲スコトヲ圖ラサル可カラス

第四章 結論

以上述フル處ヲ以テ新保險事業ヲ批評シ其ノ保險カ成功スルヤ否ヤヲ盲目的絶對的ニ判斷セントスルハ誤レリ又保險ノ行ハル可キ範圍ニ就キ客觀的ニ一般ニ通スル原則ヲ闡明シタルモノニモアラサルナリ營利團體相互團體又ハ職業組合的團體中上述困難ナル點ヲ有スル個々ノ保險ニ就キ其ノ歴史及組織ヲ論評シ是等保險ノ開始ニ依リ社會ニ及ホシタル保險強制ノ價值ヲ明ニスルモ其ノ個々ノ保險カ其ノ目的ヲ遂行シ得ルヤ否ヤヲ斷定スルコト難シ只斯ル保險ニ對スル需

要ノ發達シタル場合其ノ需要ノ目的タル保險カ最モ合理的ニ行ハル、方法ヲ指
摘シ得ルノミ

要スルニ或ル保險ノ行ハレ得ル境域ヲ決定シ得ルモノナリヤ否ヤノ問ニ對シテ
ハ否定的ニ答フルノ外ナシ換言スレハ理論的判斷ヲ以テ一般ノ斷定ヲ下スコト
不可能ナリ只個々ノ場合ニ就テ實際的ノ判斷ヲ下スヨリ手段ナシ



特別危険ニ對スル割増保險料

獨逸「ヘックナー」氏述

割増料金を如何ニスヘキカ如何ナル場合ニ其ノ料金を高メ或ハ如何ナル場合ニハ之ヲ高メサル可カラサルカ等ノ問題ハ一般ニ保險制度ニ對スル各人ノ見解異ナルヘキヲ以テ之ニ對スル回答亦一ナル能ハス或ハ保險ノ取扱上其ノ簡單ニシテ取扱ノ便ナルヲ貴フモノアルヘシ換言スレハ時ト勞費トヲ節約セントスルモノハ制度ノ實行ニ當リ多少ノ不正確不法等アルモ喜テ之ヲ看過セント欲スルモノアリ此ノ種ノ人々ハ割増料金の制度ヲ全然排拆シ或ハ其ノ特ニ必要ナル場合ニ於テノミ之ヲ採用セントス他ノ一派ノ者ハ保險制度ヲシテ出來得ル限り正確ニ且ツ正當ナルモノナラシメント欲ス彼等ハ特種危険ニ對シ特種料金を課セントスルニ當リ遭遇スル種々ノ難問題或ハ事務取扱ノ錯雜繁累ノ如キハ其ノ目的タニ達シ得ハ敢テ意トスルニ足ラスト爲ス此ヲ以テ彼等ハ各契約ノ申込者ニ對シ個々のニ其ノ申込者ニ應スル料金を課スル如キモ苟モ科學ノ力ヲ以テ其ノ正確ヲ期スル以上之ヲ敢テスルヲ辭セサルナリ尙第三ノ見解ヲ有スル者ハ彼等ハ

必スシモ制度ノ簡易ト正確トニ意ヲ介セス專ラ其ノ保險ノ數量ニ重キヲ置クヲ以テ其ノ主トスル所ハ正確ニアラスシテ保險ノ普及ニアリ從テ彼等ハ契約カ形式ヲ簡單ニシ其ノ効力ノ及フ範圍ヲ擴大ナラシメントス從テ苟モ保險ヲ利用セントスル意思アルモノヲシテ遺憾ナク利用セシメントスルニアルヲ以テ特別ノ危險ニ對スル割増ノ如キ亦深ク意ニ介セサルナリ

是等三種ノ見解ハ實際ニ當リテハ各全然獨立スルモノニアラス互ニ或ル程度迄三種ノ理想ノ結合ニ依リテ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得由來私營ノ生命保險會社事業ハ公衆ノ加入ヲ強制スルモノニアラサルヲ以テ是等ノ會社ニ就キ其ノ割増保險制度ヲ論セントセハ先其ノ公衆ノ方面ニ於ケル希望ト需要トヲ探索スルコトヲ要ス尙世人ノ對利的性質ハ保險業者ノ支拂能力ト共ニ不可離ノ關係ニアリテ之亦研究ヲ費サ、ル可ラス凡ソ是等ノ心的作用競合シテ遂ニ私營保險ヲシテ今日ノ盛況ヲ呈スルニ至ラシメ進ンテハ將來國民ノ教化ヲ完成シ保險關係ノ人々ノ利害關係ヲ密接ニ連絡セシムルニ至ルヘシ斯ク被保險者ノ幸福ハ財的擔保トシテ彼ハ對立スル以外ノ凡テノ被保險者ノ幸不幸ニ依リテ決ス保險契約者ノ幸不幸亦一方ニ保險業者ノ財力其他ノ實力ト密接ノ關係ヲ有シ他方ニ會社ノ取

締役其ノ他ノ機關ノ如何ニ依リテ決セララル、モノナリ

現行ノ私營保險業ヲ以テ已ニ完全無缺ノ域ニ達シ此レ以上改良ノ餘地ナシトスルハ素ヨリ皮相ノ見ナリ然レトモ保險者ト契約者トノ間ニ利害ノ衝突アリテ爲メニ絶ヘサル反目ノ存ス可キ實狀ヲ窺ハントセハ勢ヒ現行事業ノ實地ヲ以テ出發點トシ然ル後保險契約者ヲ如何ニ保護スヘキカ或ハ法律ヲ設ケテ保險者ヲ如何ニ束縛スヘキカ換言スレハ如何ニシテ弱者ヲ助ケ如何ニシテ強者ヲ挫クヘキカ之レ想フニ權力ノ後援ヲ要スルモノニシテ以テ公共ノ利益ヲ期待スヘキヲ得ヘケンカ保險ノ効用ヲ完カラシメントセハ科學的原理ヲ應用シテ各面部ヲ檢シ其ノ行動ヲ批判シ強制セサルヘカラス事業ニ經驗アル實際家ト雖モ或ハ經濟的計算的ニ屬シ或ハ事業政策的心理的ニ屬スル諸般ノ事情ヲ明ニシテ後始メテ此ノ難問ヲ解決スルコトヲ得ルノミ保險業カ其ノ内部及外部ニ行ハル、濫用腐敗及危害等ニ對スル微妙ナル作用アルコトヲ看過シ易シ保險理論ノ概要ヲ會得シタルノミニテ徒ラニ机上ノ空論ヲ弄スルモノ、如キハ到底之レ等ノ點ニ關スル難問ヲ解決シ得サルヘシ

健全ナル保險ノ發達ヲ期スルタメニ要スル根本的條件ノ知識ヲ缺キ保險事業内

部ノ運用ニ對スル精確ナル觀念ヲ有セサルニモ係ハラズ今日ノ輿論ハ私營保險業者カ特別ノ危險ニ對シテハ割増料金ヲ請求スルカ又ハ斯ル危險ヲ有スル保險ヲ拒絶スルノ權利アルヘキモノナルコトヲ是認ス人類カ痛切ニ相互間ノ利害關係ヲ感シ得ル程度マテ道德心、經濟觀念ノ發達シタル所ニアリテハ自他ノ經濟的關係ヲ比較的明瞭ニ認識シ得、從テ其ノ共同生活ノ負擔ヲ各自ノ間ニ衡平ニ均分セントスルハ自然ノ欲求タリ而シテ其ノ目的精神ニ依リ相互ノ利害關係ニ於テ相結合セル集團トシテハ今日保險團體ニ如クモノナシ茲ヲ以テ今日世人ハ危險ノ種類ト程度ト異ル場合ニ其ノ各ニ對シ各別ノ料金ヲ課スルコトハ理論上當然ノ事ニシテ當務者ノ必スカムヘキ所ナリトス然レトモ公保險即チ強制保險ノ部門ニ於テハ是等ノ衡平論ハ今尙比較的輕視セラレ居ルモノ、如シ凡ソ或ル危險ニシテ會社報償ヲ支拂フ場合ニ之ニヨリテ損害ヲ蒙ル者ハ當該被保險者以外ノ被保險者ナリ此等ノ被保險者ハ其ノ保險ニ關スル精確ナル智識ヲ缺クカタメニ斯ル加害作用ヲモ甘受ス或ハ自ラ之ヲ知ラサルニアラサルモ之ニ對抗スヘキ良武器ヲ有セサルヲ以テ暫ク默シテ之ヲ忍フナリ要スルニ今日保險界ニアリテ經濟的弱者ヲ救濟シ其ノ强者ノ橫暴ヨリ免レシメント欲セハ大危險ニ對シ之ニ

應スル割増料金ヲ制定スヘキ義務ノ自覺ヲ保險業者ニ警告スルヨリ急ナルハナシ

此ノ倫理的義務ノ自覺ハ民間保險會社殊ニ其ノ被保險者ニ利益分配ヲ行フ會社ニ在テハ實質的ニ正當ノ料金ヲ計算スルノ必要缺クヘカラサルコトヲ自認セサルヘカラス形式上ニ於テハ稍其ノ方面ニ意ヲ用ユルニ至レリト雖モ尙保險ノ事情ニ鈍キ保險契約者ハ形式的保險條款ノ維持ニ依リテ屢々會社ヨリ一定ノ給付ヲ受ケ得ルモノニシテ爲メニ享クル所ノ利益鮮ナカラサルコトハ之ヲ認メサルニアラス然レトモ保險契約ノ條項ヲ濫用スルコトハ尙更ニ甚シキモノナリ如斯濫用ハ其契約ノ形式カ法律ヲ以テ規定シ監督官廳ノ認可ヲ得タル場合ト雖モ是等ノ法律上行政上ノ監督カ行ハル、ニ依テ反テ私人間ノ監督的効力アル批評並ニ同業者間ノ批評カ自然麻痺スルニ至ル凡ソ保險ニ關スル立法事業ヲ保險關係ニ對シ保險契約ヲ技術的監督ニ對シ法律の監督ヲ科學的批評ニ對シテ行政官ノ批評ヲ重スル傾向アルヲ以テ保險業者ノ良心カ鋭敏ニ微妙ニ趣クコトナク只法條ニ從ヘハ會社當事者ノ能事足レリトナスカ如キ弊風ヲ生セシムルニ至ル去レハ法制上ノ監督ヲ以テ唯一ノ監督トシテ之ニノミ依賴スルトキハ却テ法條ヲ盾

トシテ其ノ不徳ヲ顧ミル者ナキニ至ル去レハ法規ヲ制定シ然モ保險業者ノ良心ヲ痲痺セシメサラント欲セハ彼等ヲシテ科學的研究ノ源泉ヨリ得タル智識ヲ以テ其ノ智識ヲ中心トシテ自己ノ事務ニ忠實ナラシムルノ方法ヲ採ラサルヘカラス如斯ハ特ニ私營保險ニ對シ其ノ必要大ナリ此ノ點ニ於テ保險研究ノ中央學府ヲ設立シ保險業者ヲシテ此ノ學府ノ發達ニ出來ル限リノ貢獻ヲナサシムルコトヲ要ス同時ニ此ノ學府ヲシテ單ニ保險業者ノ鼻息ヲ窺ハシムルノミニ終ラシメサラントセハ勢ヒ獨立不可浸ノ位置ヲモ與ヘサルヘカラス

斯ル獨立自由ノ基礎ヲ有スル學術的研究所ニ對シテ我獨逸ノ私營保險ハ今日迄援助ヲ與ヘタル事ナキハ遺憾ノ至リナリ然レトモ彼等ハ自ラ保險科學ヲ創設シ同時ニ保險技術ヲ發達セシメタルノ功ハ非認スヘカラス已ニ現今ト雖モ世人ハ彼等ノ算定スル料金率ニ對シ且ツハ彼等ノ財政狀態ニ對シテ一應ノ信賴ヲ有セリ殊ニ鮮ナクモ通常ノ危險ニ對スル保險ニ對シ一定ノ報酬(純保險料、附加保險料)ヲ與ヘ事業ノ行使ニ對シ一定ノ行政規定積立金ノ計算、買戻ノ計算、契約變更價格ノ計算等ニ關シテ定メタルノ功ハ之ヲ生命保險ニ歸セサルヘカラス蓋シ吾人ハ生命保險ニ在リテハ危險ノ大小ヲ生存命數ニ從テ區別スルヲ得ヘシ斯クテ死亡

表ヲ作製シ此ノ表ヲ種々ノ計算基礎トシテ利用スル事ヲ得ヘケレハナリ

「カルツ」博士カ「ゴーター」生命保險銀行ノ計算方ヲ改正スル迄ハ獨逸ニ於ケル生命保險業者ハ此ノ簡單ナル死亡表(年齡階級別ニ依リテ作りタル)ヲ使用セリ但シ世人ハ危險選擇ノ効力ノ偉大ナルコトヲ覺認シタルコト久シ保險ノ實際ニ當リテハ豫定計算ハ必ラスシモ實現スルモノニアラス其ノ多クハ最初ノ豫定計算ト相違ノ結果ヲ呈スルヲ常態トス此ヲ以テ世人ハ通常利益分配ノ制ヲ設ケテ屢々巨額ノ利益ヲ分配シ以テ其ノ實際ト豫定トノ相違ノ調和ヲ圖レリ然レトモ完全ナル統計的研究ニ依リ過剩發生ノ原因ヲ明ニスルヲ得サル限リハ利益分配ハ其ノ局ニ當レル者ノ任意ニ決定スル所ナルヲ以テ最モ公平ナルモノト稱スルコト能ハサルハ自然ノ理ナリ故ニ從來舊式保險會社カ苦心ノ後利益配當ノ制ヲ案出シ之ニ依リテ一時ハ公衆ノ信用ヲ博スルニ至リタルモ右述フルカ如キ配當制其ノモノカ公平ヲ期スル能ハサルコトヲ發見スルニ至リ恰モ弊履ヲ捨ツルカ如ク此ノ制度ヲ拋棄スルニ至レリ普通ノ危險ニ對スル保險ニアリテスラ其ノ掛金及積立金ノ計算ハ科學的見地ヨリシテ尙缺クル所多シ況ンヤ附加保險料ノ如キ錯雜セル事情ヲ前提トスル計算ニ在リテハ其ノ完全ヲ期スルノ難キヤ蓋シ知ルヘキ

ノミ元來特別危險 *erhoete Risiken* ナル概念其ノ者カ今尙動搖シ一定スルニ至ラサルナリ國際間ノ用語トシテ特別保險ト云ハ、或ルモノ、保險ニ於ケル危險カ特別ニ他ノ場合ヨリモ大ナルカ爲メ通常料金即チ料金表ニ示ス料金ヲ以テ行ハレスルニ一定ノ報酬ヲ支拂ハサルヘカラサル場合ニ其ノ危險ヲ指シテ稱スルナリ然ルニ獨逸ニ於テ必ラスシモ如斯意味ニ用ヒラレス例ヘハ危險ハ通常ニアラスト雖モ通常ノ料金ヲ以テ保險スル場合ノ危險ニモ特別危險ト稱スルコトアリ而シテ之ニ對立シテ國際上ノ意味ニ於ケル特別危險ナル用語ヲ用フル場合ハ加重條件ニ於ケル特別危險 *erhoete Risiken unter erschwerenden Bedingungen* ナル語アリ斯ク特別危險ニ對シ課スル特別料金ハ會社ニ特ニ重大ナル義務ヲ負ハシムルモノニシテ第一ノ獨逸語ノ意義ノ場合ニハ會社ニ重キ義務ヲ負ハシムルコトナシ世人ハ加重條件ニ於ケル特別料金ハ畢竟高率ノ死亡ニ對スル保險料ニ一致スルモノト思フモノアリ此ノ疑問ハ理論上全ク根據ナキニアラス尙實際家カ自己カ其ノ實務ニ當リテ際會シタル豫想外ノ大損害ヲ以テ自ラ其ノ保險ノ組織ニ通曉セサルノ致ス所ナリト思惟スルモ亦過レリ蓋シ偶然ノ損害ナルモノハ常ニ發生スル所ニシテ是亦實際家ノ豫メ念頭ニ置クヲ要スルハ勿論ナレトモ之ヲ以テ特別危險

ト混同スルハ過リナリ

醫師ノ多數ハ個々ノ危險増加ノ本體ニ關シ高率保險料ヲ以テスル保險契約ハ原則トシテ保險期間ノ強制的短縮ニ論及ス今危險ノ増加カ確定セル長年月ヲ經タル後發生スルコト確定シ其ノ確定年月ノ到ルマテハ通常ノ危險ニノミ曝露サル、モノナルコト明ナル場合例ヘハ通常ノ危險ノ外ニ特別危險ノ發生スル時期カ二十五ケ年ノ後ナルコト明ナル場合ニ於テハ會社側ニ於テハ會社ハ二十五ケ年以内ノ期間ニ對シテハ通常掛金ヲ以テ保險契約ヲ締結スルモ終身保險ニ對シテハ二十五ケ年ノ後ハ年々其ノ後起ルヘキ特別危險ニ對シ特別ノ料金ヲ請求セサルヘカラス被保險者ニシテ豫メ増加保險料ノ支拂ヲナストキハ會社ハ被保險人ノ負擔ヲ輕減シ其ノ納付料金ヲ會社ノ剩餘金トシテ取扱フコトナク年々複利ノ方法ヲ以テ計算シ之ニ依テ後年ニ至リ被保險者カ高率保險料金ヲ支拂フノ必要ナカラシムヘシト云フ

如斯ハ例ヘハ申込人カ廿五年ノ後特別危險ノ職業ニ從事シ或ハ危險ノ旅行ヲ企テ氣候劣惡ナル地方ニ移住セントスルカ如キ場合ニ屢々見ル所ナリ契約ノ申込人カ其ノ職業、體質、生活狀態等ノ變化ニ依リ特別ナル危險ニ遭遇スヘキ場合其ノ

危険状態ノ發生時期ヲ割スルコトヲ得ル場合ノ保険料ハ屢々保険契約者ノ利益ヲ無視スルカ如シ異常ノ危険ヲ有スル生命ヲ強制的ニ短縮期間ヲ以テ保険シタル場合及其ノ他危険ノ種類ニ依リ區別シタル人々ニ就キ統計的ニ經驗シタル所ニ依レハ上述ノ如キ特別危険ノ存スル場合ニ其ノ危険状態カ豫定ノ期間後ニ始メテ開始スル事實ヲ確ムルコトヲ得サルモノニ似タリ換言スレハ此ノ種ノ危険ハ已ニ契約ノ初ヨリ或ル程度ニ於テ機會ヲ得ル毎ニ發現セントスル傾向ヲ有スルモノニ似タリ故ニ危険カ或ル一定ノ年月内ハ通常ノ程度ニ於テ發生スルモノナリトノ理由ニ依リ特別ナル危険ニ際會スヘキ人々ノ特別料金ニ對シ割増料金ノ請求ヲナサハルコトハ過リタル政策ナリ如斯ハ醫師ノ生活力ニ關スル判斷ヲ餘リニ尊重スルニ基因スルモノナリ短期保険ノ締結ハ夫レニ應スル多額ノ準備金ヲ備フルヲ以テ例ヘハ終身保険ノ契約ヲナスヨリモ遙ニ冒險的性質少ナシト云フコトヲ經驗上證スルモノナリ申込人カ通常危険ト特別危険ノ中間ニ位スル時ハ假令申込人ヲシテ通常ノ料金ヲ以テ契約ノ締結ヲ爲サシムルトスルモ保險期間ヲ短縮スルコトハ機宜ニ適スル方法ナリ此ノ方法タル素ヨリ正當ノ手段タリト雖モ其ノ前提トシテハ會社ノ保険スヘキ危険ニ對シ尙未タ其ノ程度ヲ確認

スル上ニ於テ疑問ノ存スルヲ免レス
 若シ會社ノ制度殊ニ其ノ計算ノ基礎又ハ過剩分配ノ方法ニ於テ或ル缺點アルカ如キ場合ニ於テモ特別割増料金ヲ課スルヨリモ保險期間ヲ短縮スルコトニ依リテ大ニ好結果ヲ齎スニ至ル場合アリ例ヘハ或ル保險會社カ短期及長期ノ保險ニ對スル保險料ヲ年齢階級ニ依ル單純ナル死亡表ヲ基礎トシテ算出シタルトキト雖モ醫的選擇ノ効果ヲ無視スルカ爲メニ短期間ノ保險ニ對シテハ料金過重ニ失シ長期間ノ保險ニ對シテ料金輕キニ失スルコトアリ換言スレハ短期保險ニ對スル保險料金ハ通常ノ危険ヲ負フノミナラス夫以上ノ危険ヲ保險スルモノニシテ且特別ノ危険ヲ有スルモノニ對シ特別ノ割増料金ヲ課セスシテ直ニ之ヲ適用シ得ヘキモノナラサルヘカラス例ヘハ會社カ其ノ料金ヲ獨逸廿三會社ノm及w一表ニ依リ制定シタルトシ而モ死亡ハ此ノ表ニ依リテ豫想シタルト異ナリ「カルプ」氏死亡表ノ如キ結果ヲ生ジタルトセヨ斯ノ如キ場合六十歳ノ者ヲ保險スルニ當リテハ次ノ表ニ照シテ之ヲ見サル可ラス

年 齡	死 亡 率	
	mnwlノ豫定死亡率	「カルプ」表ノ豫定死亡率
		‰

正當死亡率ニ對スル保險料ト變則死亡率ノ保險料トノ差
 [+印ハ「ブラス」-印ハ「マイナス」ヲ示ス

六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	四〇	三九	三八	三七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一																														
三五、三六	三七、八二	四〇、四二	四三、一七	四六、一三	四九、四三	五三、二九	五七、六二	六二、二六	六七、三一	七二、七六	七八、五六	八四、五九	九一、三〇	九八、五四	一〇六、四九	一一四、五一	一二三、一二	一三二、三三	一四二、一九	一四、七三	二二、二四	二六、五一	三〇、二〇	三四、三九	三九、四〇	四七、一一	五五、五一	六〇、三一	六五、四八	七〇、九六	七六、七九	八三、〇四	八九、八九	九七、五四	一〇六、一四	一一五、七七	一二六、三九	一三七、七八	一四九、六九	二〇、六三	一五、五八	一三、九一	一二、九七	一一、七四	一〇、〇三	六、一八	二、一一	一、九五	一、八三	一、八〇	一、七七	一、五	一、四一	一、〇〇	〇、三五	一、二六	三、二七	五、四五	七、五〇

八〇	七九	七八	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	四〇										
一五五、一四	一六九、七四	一八四、五一	一九八、二五	二一一、一二	二二二、〇〇	二二八、〇五	二三三、六八	二三七、八八	二四三、一六	一六一、八八	一七四、二六	一八七、〇三	二〇〇、五四	二一五、三三	二三一、七九	二五〇、四四	二七一、三三	二九四、四四	三一九、六七	六、七四	四、五二	二、五二	二、二九	四、二一	九、七九	二二、三九	三七、六五	五六、五六	七六、五一	六、七四	四、五二	二、五二	二、二九	四、二一	九、七九	二二、三九	三七、六五	五六、五六	七六、五一

是ニ依リテ之ヲ觀ルニ最初十六年間ハ會社ハ死亡ニ依リテ利得シ其ノ後ハ損ヲ蒙レリ今若シ保險期間ヲ短縮センカ會社ニトリテハ愈有利トナル十六ケ年ノ保險期間ヲ以テ爲シタル場合ニ死亡カ「カルプ」氏表ニ準シテ發生シタリトセハ會社ハ利益ヲ見ルノミ保險期間更ニ短縮センカ會社ノ利益愈大ニシテ通常ノ危險狀體ニ在リテ賭ルカ如キ多數ノ死亡者アルモ尙會社ハ損失ヲ招クニ至ラサルヘシ次ニ掲クル二十三會社ノ MW 一表ト同二表トヲ比較シテ視ルヘシ

特別危險ニ對スル割増保險料

保險期間	mnwl表ハ「カルプス」表ニ比シ死亡率高キコト千人中左ノ如シ	獨逸會社ノ實驗ニ依レハ正當危險ニ比シテ變則危險ニ因ル死亡率高キコト千人中左ノ如シ
一	二〇、六三	七、二七
二	一五、五八	六、七五
三	一三、九一	六、一一
四	一二、九七	五、一六
五	一一、七四	四、四五
六	一〇、〇三	四、七三
七	六、一八	五、六一
八	二、一一	六、七三
九	一、九五	八、八七
一〇	一、八三	一、二一

特別危險ヲ有スル申込人ニ對シテ會社カ特別料金ヲ徵スルコトナク只其ノ危險ニ應シ短縮シタル期間ヲ以テ契約ニ應シタル場合ニ於テ會社カMW一表其ノ他之ニ類スル簡單ナル死亡表ニ依リテ計算シタルトキハ他ノ被保險人ニ對シ義務ノ履行ヲ爲シ得サルカ如キ窮地ニ陥ルコトナシ若シ會社カ斯ル場合ニ期間ヲ短縮スルノミナラス料金ヲ加重スル如キコトアラシカ此ノ加重スル分ノ料金ハ會社ノ純剩餘金トナルヲ以テ會社ハ準備金トシテ留保スルコトナク直ニ之ヲ配當ス

ヘキモノナリ上ニ述フルカ如ク死亡表經營費計算或ハ過剩金計算等ニ存スル缺點ヲ補フ爲メニ特別危險ノ保險ニ對シ期間ヲ短縮スルコトハ極メテ便利ナルカ如シト雖モ然モ之ヲ常ニ遵奉シテ過ナシト言フニアラス之レ蓋シ通常危險ニ對スル所謂標準保險料ノ正確ヲ期スルコト困難ナルヲ以テナリ通常危險ニ對シ任意ニ極メテ短期間ノ保險ヲ撰擇スルモノハ進ンテ此ノ高キ對價ヲ支拂フモノナリ是レ恰モ特別危險ノ被保險者ニ對シ強制的ニ期間ヲ短縮セシムルト同様ニ其ノ保險料ハ高キ額ヲ支拂ハシムルモノニシテ爲メニ會社ノ利得スル所實ニ莫大ナリ多數ノ保險契約者ハ生命保險業ノ科學的根據及會社ニ對スル國家ノ監督ニ厚ク信賴スルヲ以テ會社カ斯ル方法ニ依リ利益ヲ占ムルニ至ルヲ感セサルヘシ只信用アル二三ノ會社ハ如斯欺罔ノ手段ニ出ルヲ欲セス公衆ノ信用ニ乘シテ彼等ヲ詐害スルコトナク彼等ノ經驗セル通常危險ニ對シテ生スヘシト信スル正確ナル死亡表ノ助ニ依リ通常料金ヲ制定スルヲ以テ自己ノ義務トナシ之ニ依リ其ノ信用ヲ社會ニ博セントスルナリ斯ル會社ノ所謂通常トハ例ヘハ簡單ナル死亡表ニ依テ舊式ノ方法ヲ以テ計算シタル會社ノ所謂通常トハ其ノ趣キヲ異ニセリ蓋シ嚴格ナル科學的根據ヲ有シ兼テ會社ノ良心自覺ニモトツキテ爲シタルモノ

ナレハナリ如斯通常料金ト目スヘキモノニ就テ立法者カ特ニ定義的ニ法律ヲ以テ規定スルコトナキハ想フニ其ノ觀念ノ決定ヲ各時代ノ進歩シタル學術的解決ニ一任セントスルニアリ通常危険ニ對シ通常(正當ニシテ學術的根據ヲ有ス)料金及準備金ヲ計算スルニ用フヘキモノハ舊式ノ死亡表ニアラス任意ニ撰擇セル利率ニアラス又其ノ任意ニ定ムル割増料金ニアラスシテ科學的基礎ヲ以テ將來ノ死亡將來ノ利子收入及將來ノ事業經營費ヲ研究シテ得タル原則ナラサル可ラス保險普通掛金ハ會社カ自己ノ事業ヲ行フニ當リ普通危険ニ對シテ自ラ經驗的ニ得タル死亡率ヲ標準トシテ計算シ且ツ將來ノ經營費及利子收入ハ之ヲ科學的基礎ニ依リタトヘ新契約ノ額カ豫想ト一致セサルコトアルモ又ハ解約者ヲ生スルコトアルモ爲ニ保險費ニ變化ヲ來スコトナカラシムル様ニ計算セサル可カラス斯ク普通保險料ノ制度ニシテ健全ナル基礎ヲ有スルトキハ特別危険ニ對スル割増保險料ノ問題ハ之ヲ前提トシテ論スルコトヲ得(ロゴヒルス氏ノ「チルメル」氏ノ方法ニ關スル議論ナル書及余カ保險科學雜誌第五卷ニ於テ述ヘタル「生命保險ニ於ケル準備金ノ價值ニ關シナル小論文參照」)

通常危険ニ對シ上述ノ保險料金計算ノ合理的方法ニ對シテ法律又ハ命令ノ規定

上其ノ實行ヲ困難ナラシムルカ如キ國ニ於テハ特別危険ニ關スル問題ヲ學術的原理ニ依リテ取扱フコト不可能ナリ假令全然不可能ニアラストスルモ尙其ノ原則ヲ適用スルニ當リテハ多大ノ斟酌ヲ施サ、ルヘカラス斯ル地方ニアリテハ之カ正當ナル料金計算法實施ノ爲メニ全力ヲ盡シテ其ノ障礙ヲ除去スルニ努メサルヘカラス蓋シ此ノ合理的方法ハ會社ノ信用及生命ヲ維持スル爲メニ缺クヘカラサル後援ヲ與フルモノニシテ苟モ保險學カ要求スル會社ノ秩序ヲ維持セントセハ一時モ放置スヘキ問題ニアラス通常危険ニ對スル保險料カ上述ノ原則ニ準據シテ制定セラレタル場合、普通以上ノ危険ハ必ラス普通料金以上ノ料金ヲ以テセサルヘカラストノ原則ハ如何ナル場合ニモ之ヲ適用スルコトヲ得ヘシ割増保險料附加ノ方法及形式ニ就テハ素ヨリ一ナラスト雖モ要スルニ割増保險料(又ハ其ノ變態ハ常ニ之カ附加ノ目的タル特別危険ノ發生ニ對シテ備ヘサルヘカラス)特別危険ノ觀念明瞭ナラサリシ時代ニアリテモ平時ニ於ケル戰爭危険ニ關スル特別料金ノ如キ複雑ナル割増料金ヲ求メテ之ヲ特別準備金ニ蓄積シ尙又統計上確定スヘキ將來ノ波動的又ハ平準的特別危険ニ對シテモ割増料金ヲ以テ之ニ應シ斯クテ尙積立金不足アル場合ハ他ノ處分シ得ヘキ財産ヲ以テ該積立金ノ構成

ニ供セサルヘカラス危険ノ高潮カ各保險年度内ニ繰リ返シ回歸シ其ノ危険ニ對シテ定メラレタル割増料金カ年掛金ノ一回又ハ數回ニ限リテ課セラル、場合又同様ノ必要生ス

特別危険カ各保險年度内如何ナル程度ニ於テ如何ニ分配セラル、カニ就キ技術的計算ニ依リ確定シ得サル場合毎年均一ノ割増料金ヲ課スヘク此ノ料金ヲ以テハ特別ノ準備金ヲ構成セシムルコトナキモ大ナル過誤ナキヲ得ン斯ル方法ハ我獨逸ニハ比較的廣ク行ハル、所ナリ但シ其ノ割増方法ニ至テハ一樣ナラサルナリ此ノ外尙同様ニ實用的價值アル方法ハ年齡増法 Systematische alterserhöhung ナリ此ノ方法ハ危険ノ特別ニ大ナル者ニ對シテ恰モ其ノ者カ一歳乃至數歲實際年齡ヨリモ老成セル者ト看做シテ取扱フモノナリ去レハ此ノ方法ニ依ルトキハ之カ準備金計算ハ通例ノ單純ナル保險料金割増方法ト全ク其ノ趣ヲ異ニセリ料金割増法ニ依ルト年齡割増法ニ依ルトノ間ニ技術的效力ノ如何ニ異ナルカラ研究スルハ興味アル問題ナラスンハアラス普通危険ニ於ケル保險料ハ最モ憑據スヘキ將來ノ死亡率、利率、及會社經營費ヲ科學的ニ何等ノ缺點ナキ前提材料トシテ計算スルコトヲ要ス然ラサレハ分配金ノ制度ヲ以テ適度ニ保險料率ヲ調和ス

ルコトヲ要ス若シ實地ニ當リ上述ノ如キ科學的ニ信賴シ得ル確實ナル材料ノ存セサルニ於テハ割増金ハ或ル種ノ斟酌ヲ加ヘテ算出セサルヘカラス若シ斯ル斟酌ヲ施サスシテ然モ不正確ナル材料ヲ以テ料金ノ算出ヲナシタル場合ハ到底實際ニ之ヲ適用スルコト能ハス獨逸ノ實際ニ行ハル、方法トシテ左ノ二種アリ
甲、保險料ノ單純増加即チ割増保險料ノ増加 ΔP_x ハ事業進行處分シ得ヘキ年々ノ資金ヲ増加ス此ノ増加保險料 ΔP_x ハ保險數理上ノ計算ニハ何等ノ關係ナシ(保險數理上ノ計算トハ積立金、買戻金、變更等ニ關スルモノナリ)

乙、年齡割増法被保險人ヲ實際ノ年齡以上ノモノトシテ取扱フ方法ナリ右兩種ノ方法ヲ行フ場合ニ於テ増加保險料ニ依リテ應セラルヘキ増加死亡率ハ左ノ如クシテ計算スルコトヲ得ヘシ第 n 年目ノ保險證券ナルトキハ

甲ノ場合ニハ

$$\frac{\Delta P_x(1-l)(1+i)}{1-V_x^n}$$

乙ノ場合ニハ

$$q_{x+m} + n - 1 - q_x + n - 1$$

此ノ式ニ於テ l ハ保險料ニ課スヘキ營業費ヲ意味ス此ノ式ニ從テ數表ヲ作製スルニ當リ孰レノ方式モ保險ノ年限内ニ増加スル死亡率ニ對シテ其ノ増加ニ應スルモノタルコトヲ知ルヘシ甲ハ危険カ契約後直チニ増加シ始ムル場合ニ用フ

ヘク乙ハ其ノ危険ノ然ラサル場合ニ用フヘシ甲乙共ニ吾人カ危険ニ對シ判明セ
ル概念ヲ有セサル如キ危険カ永久ニ増加スルコトヲ前提トス危険ノ一時的増加
ニ對シテハ保險料ヲ一時的ニ割増ス方法ニ依ルヘシ戰爭危険ノ如ク偶發的危険
ニ對シテ割増金ヲ前拂セシムル場合ニ於テ若シ其ノ特別危険カ發生セサリシト
キハ料金ハ之ヲ還付スルコトヲ要ス割増料金ニ關シテ更ニ詳細ナル研究ヲ遂ケ
ントセハ特別危険ヲ現今行ハル、ヨリモ更ニ細密ニ分類シテ豫メ之カ統計的研
究ヲ遂行シ置カサルヘカラス然ルニ今日ノ研究ハ未タ此ノ程度ニ達セサルナリ
希クハ各會社舉テ此ノ方面ニ助力セラレンコトヲ

特別危険ニ對スル割増料金ノ問題

瑞典「パール」氏述

危険増加ニ對スル報酬ノ問題ハ特ニ生命保險ニ於テ其ノ必要ヲ見ルモノニシテ
我國ニ在リテハ二十世紀ノ初頭ヨリ其ノ解決ニ就キ識者ノ努力怠ラサル所ニシ
テ今ヤ保險界ノ常套ノ問題トナレリ斯ル報酬ニ對シ合理的原則ヲ建設センコト
偏ニ望マシキ所ナリト雖モ從來世人カ主トシテ之カ資料ニ供シタルハ輓近保險
實務ノ發達ヲ促シタル幼稚ナル制度ニ過キ素ヨリ彼等ハ從來ノ幼稚ナル方法
カ果シテ實社會ノ必要ニ應シタルモノナリヤ否ヤニ就テハ殆ント明確ナル觀念
ヲ缺キシナリ。

從來我國會社ニ於テ採用セラレタル方法ニ左ノニアリ。

一、保險料ノ割増

二、保險種類ノ變更

保險料割増方法ハ原則トシテ年齢ノ割増ニ依リテ之ヲ爲セリ即チ申込人ノ契約
當時ニ於ケル年齢ヨリモ一層高齢ノ料金ヲ以テ契約ヲ締結スルモノナリ但シ或

ル場合ニハ保險金額ニ對スル一定ノ百分率ヲ以テ割増料金ト爲スカ如キ方法モ存セリ。

保險方法ノ變更ハ多クハ死亡保險ノ申込ニ對シ混合保險ヲ以テ應スルコトニ依リテ之ヲ爲セリ此ノ方法ハ其ノ適用ニ當リテ不確實ナル感情ヲ起サシムルノミナラス方法夫レ自身カ合理的基礎ヲ有セサルナリ茲ヲ以テ千八百九十八年「フェールジングスフォール」ニ於ケル「スカンジネビヤ」生命保險會議ニ際シ余ハ自ラ提議シテ本會議ニ列席シタル「スウェーデン」「ノールウェー」「デンマルク」「フィンランド」ニ於ケル各會社ノ代表者タル十七名ノ委員ト共ニ特別料金問題ノ根本的解決ニ盡力セラレンコトヲ提議セリ此ノ提議ハ各代表員ノ歡迎スル所トナレリ。

此ノ提議ニ從ヒ組織セラレタル委員會ニ於ケル協同研究ノ結果ハ今日已ニ「スウェーデン」ノ生命保險會社間ニ特別危險ノ處分ニ當リテ採用セラル、所ト爲リ爾後ノ研究亦同様ニ漸次實際界ニ採用セラル、ニ至レリ余ハ此ノ委員會ニ於テ自ラ議長タルノ榮ヲ得タリ從テ此ノ委員會ニ就キ二三ノ報告ヲ爲スコトハ會員トシテ當然ノ職務タルヲ信ス。

東京市政調査會

第一章

「スカンディネビヤ」委員會ノ主張ニ關係スル特別危險報酬ニ關スル一般方法

委員會ハ八名ノ委員ヨリ成リ内四名ハ「スカンディネビヤ」ノ四個國ヨリ選定セラレタル會社ノ専務取締役二名ハ「アクチュアリ」殘二名ハ顧問醫長ニシテ會議ノ地ハ「ストックホルム」ナリ。

委員會ニ於テ第一ノ目的ト爲シタルモノハ遺傳的祖先的影響ノ爲メニ平均年齢迄生存シ得サル如キ生活能力低キ者ニ對スル特別危險ノ研究ニアリキ。

正常危險ナル觀念ハ今尙一定セルニ非ス從テ之ニ演繹的説明ヲ施スコトノ困難ナルコトニ顧ミ委員會ハ全ク歸納的方法ニ依レリ即チ保險會社ノ實際ニ顧ミテ特別危險ノ何モノナルカニ就テ一ノ原則ヲ建テントトヲ試ミタリ其ノ結果

甲、契約ノ申込ニ對シ會社側ニ在リテ増加料金ヲ請求シ其ノ他或ル特段ノ制限的條件ヲ附シテ受諾ヲ爲シ得ル特別危險。

乙、會社ニ於テ受諾ヲ爲シ得サル特別危險。

ノ二種ニ分ツコトヲ得タリ此ノ内乙種ノ危險ニ對シテハ保險契約ナルモノヲ生

スルコトナシ從テ其ノ以後ニ於テ會社ハ是等ノ申込人ト接觸スル機會ヲ有セサルヤ勿論ナリ吾人カ是等ノ危險ヲ有スル人々ニ就キ其ノ後ノ經過ヲ探究スルコトハ甚タ難シトスル處ナリ然レトモ吾人ハ出來得ル限リ此ノ方面ノ研究ヲモ遂行セントシ或ハ會社代表者ニ依リ或ハ僧侶又ハ官廳ノ厚意ニ依リ彼等カ尙生存セリヤ或ハ已ニ死亡セルヤヲ調査シ其ノ死亡ノ場合ニハ特ニ死亡原因ノ報告ヲ依頼シテ以テ或ル結論ヲ得ントセリ去レト事ノ甚タ困難ナルニモ不拘吾人ハ「スカンディネビヤ」各國ニ於ケル被拒絕者中約十八%ニ就キ其ノ探究ヲ遂クルヲ得タリ乙團ニ屬スル被拒絕者ハ一〇・二三人ニ達シ其内報告ヲ得タル者八二〇八人此内已ニ死亡シタル者二六六%即チ人員ニ於テ二、一八六人ニ達セリ觀察期間ノ平均ハ生存者ニ對シテハ一三四年死亡者ニ對シテハ一〇三年全部ノ平均期間ハ一二六年ナリ。

被拒絕者ノ死亡率ヲ英國十七會社表ノ死亡表ト比較シタルニ ai ヲ i 年間ノ生存觀察年齡ノ總數トシ gi ヲ十七會社表ニ從ヒ i 年間ノ死亡ノ度ヲ示スモノトセハ十年ノ年齡階級團ニ於ケル死亡率ハ Maigi ナリ斯クシテ十ヶ年ノ年齡階級毎ニ死亡者ノ數ヲ集メテ得タル實際死亡率ハ十七會社ノ死亡表ニ依リテ數ヘタル死亡率

ノ幾割ニ當ルヤヲ計算スルコトヲ得斯クシテ過度死亡ノ程度ヲ觀測スルコト容易ナリ今英國十七會社表ニタイスル被拒絕者ノ死亡ノ百分率ヲ見ルニ左ノコト

年	齡	百分率	年	齡	百分率
二	〇	一四四、五	六	〇	一二三、一
三	〇	一五五、六	七	〇	一〇二、九
四	〇	一五五、四	八	〇	一一四、三
五	〇	一五〇、六	九	〇	

本表ニ就キ解説センニ二〇—三〇歳ノ年齡團ニ在リテハ十七會社表ノ死亡率ニ對シ被拒絕者ノ全部ノ死亡率ハ一四四、五ナリ即チ四四、五%死亡超過ヲ見タルナリ。

三〇—五〇歳ノ年齡團ニ在リテハ被拒絕者全部ノ死亡程度ハ其ノ極點ニ達シ約五六%ニ及ヘルヲ見ル。

斯ク實際ノ死亡率ヲ十七會社表ニ對照シタル外又五ヶ年ノ年齡團ニ分チテ之カ死亡率ヲ檢セシニ左ノ如シ。

年	齡	生存期間	死	亡	死亡程度
二	〇—二	三、三〇八	二二	〇、六九五	
二	五—三	一〇、五四九	一三六	一、二八九	
三	〇—三	一六、六六六	二〇四	一、二二四	
三	五—四	一八、六九二	三〇八	一、六四八	
四	〇—四	一六、八二六	二九九	一、七七七	
四	五—五	一三、四六三	二七三	二、〇八二	
五	〇—五	九、八五五	二七七	一、八〇三	
五	五—六	六、五三五	二三五	三、五九六	
六	〇—六	三、八九〇	一九二	四、九三六	
六	五—七	二、〇〇二	一〇六	五、二四二	

甲種ノ危険ニ對シテハ或ル特別條件ヲ以テ契約ヲ締結シ通常其ノ死亡迄會社トノ交通アルモノナルヲ以テ委員會ハ其ノ材料ヲ蒐集スル上ニ多少ノ便宜ヲ得タリ觀察人員一八、一三二人觀察期間一二年死亡シタルモノ一四五%ニシテ其ノ人員三六三八人ナリ之カ材料ノ計算ニ當リテハ前同様一方ニ十七會社表ト比較シ他方ニ五ヶ年ノ年齡團ニ別チテ其死亡率ヲ算出セリ。

英國十七會社表トノ比較結果ハ次ノ如シ特別割増料金ヲ以テ契約ニ應シタル者

ノ死亡率。

年	齡	百分率	年	齡	百分率
二	〇—三	九六、六	六	〇—七	一一二、一
三	〇—四	八九、四	七	〇—八	一〇二、〇
四	〇—五	一〇七、三	八	〇—九	八三、九
五	〇—六	一二〇、〇			

由是觀之割増料金ヲ以テ保險セラレタル者ノ死亡率ハ四十歳以前ニ在リテハ十七會社表ノ死亡率ヨリ少ナシ之レ即チ英國表ハ「スカンディネビヤ」ノ壯年階級ニ於ケル死亡率ニ比シテハ餘リニ高キ死亡率ヲ示セルモノト云フヘク而シテ過度死亡ハ五〇—六〇ノ階級ニ於テ其ノ極點ニ達シ英國表ニ從ヘハ二〇%ヲ超過ス六〇歳以後ノ階級ニ至リテハ再ヒ漸次其ノ死亡率低減シ八〇歳以下ニ至リテハ壯年時代ト同様ニ十七會社表ノ死亡率ヨリモ低キヲ見ル。

要スルニ特別危険ニ於ケル死亡率ハ其ノ危険ノ何タルヲ問ハス普通保險ノ死亡ト著シキ懸隔アルコトハ吾人委員ノ等シク是認セシ所ナリ去レハ特別危険ニ對シ正常危険死亡率ヲ基礎トシテ其ノ適用ヲ爲シ或ハ年齡ノ割増ニ依リテ正常死

亡率ヲ用ヒ或ハ料金ノ割合ヲ高メテ以テ正常死亡率ヲ應用セントスルカ如キハ少クモ上述研究ノ結果ニ依レハ其ノ當ヲ得サルノ甚タシキモノト云フ可シ若シ正當ナル方法ヲ採用セントセハ宜シク特別危険ヲ有スル者ノ間ニ就キ親シク其ノ死亡率ヲ研究シ以テ之ニ應スル料金ノ制定ヲ爲スニ如クハナシ極端ニ此ノ論法ヲ進ムレハ各種ノ患者又ハ發病ノ傾向アル者ノ各ニ就キ一々死亡表ヲ作製スルコト最モ合理的ナリト云フヘシ然レトモ如斯要求ハ唯タ机上ノ議論ニシテ實際上難シトスル所ナリ實際上ノ要求トシテハ各種ノ危険ニ對シ特別ナル標準的死亡表ノ二三ヲ作成スルヲ以テ満足セサルヘカラス各個人ニ就キ正確ヲ期スルコトハ公平ノ理論トシテハ素ヨリ望マシト雖モ事實之ヲ期スルコトハ全然不能ナレハナリ。

各種ノ特別危険中ニ或ル危険ニ對スル危険割合ヲ設クルノ方法ハ正常危険ノ場合ト異ナルナシ健康其ノ他人ノ命數ニ影響スル事情ニ顧慮スルコトナク現ニ正常料金ヲ以テ保險セラル、者ノ間ニ大ナル區別ヲ發見センコトハ想フニ不可能ナルヲ以テナリ

去レハ委員會ハ特別危険ニ對スル料金率ノ提議ヲ爲スニ當リ危険ノ種類ヲ只二三ニ止メ此ノ危険ニ應スル死亡表ヲ作製シ以テ之カ料金ヲ制定スルノ主義ヲ採用シタリ

危険ノ種類(正常危険ヲ除ク)ハ暫ク分ツテ之ヲ二種トセリ一ハ危険ノ小ナルモノ他ハ比較的其ノ大ナルモノ之ナリ茲ニ於テ問題ハ此ノ危険ノ二種類ノ間ニ於ケル死亡標準ヲ發見スルコトニ歸着ス吾人ハ曩ニ危険ヲ甲種乙種ノ二種ニ區別シ一方ハ危険ノ比較的小ナルモノニシテ或ル條件ノ下ニ契約ニ應シ他方ハ危険大ナルヲ以テ契約ノ締結ヲ拒絕スルモノトセリ此ノ内甲團ニ關シテハ十七會社表ニ比シテ二〇%以下ノ死亡超過ヲ發見シタルノミ蓋シ委員ハ所謂小増加ノ場合ヲ以テ之ヲ爲シタルカ故ニ甲團ノ死亡率ハ十七會社表ノ死亡率ニ比シ二〇%迄ノ増加ヲ見ルニ至リシナリ假リニ之ヲ僅少増加(Geringere Erhöhung)ト命名セリ之ニ反シ乙團ニ關シテハ十七會社表ニ比スレハ五六%迄死亡率増加セルヲ見タリ想フニ乙團ノ材料ハ被拒絕者ヨリ來リ且其ノ被拒絕者中ニハ本來拒絕ノ要ナシト認ムヘキ者ノ多數ヲモ包含セルヲ以テ委員ハ是等ノ危険團ノ死亡率トシテハ十七會社表ニ五〇%以上ノ割増ヲ爲ス必要ナシト認メタリ假リニ之ヲ大多數増

加 (Grossere Erhoelung) ト言ハム

二種ノ死亡表ハ如斯シテ構成セラレ而シテ年四分ノ利率ヲ基礎トシ「スウエーデン」
 舊會社ニ於テ通常行ハル、カ如キ料金割増(平均純保險料ノ二〇%)ニ依リテ營業
 費ヲ加味シ以テ保險料ノ計算ヲ爲スコトヲ得

余ハ左ニ二三ノ表ヲ掲ケテ通常料金、僅少増加ノ料金及多大増加ノ料金ヲ示サム

I. 九十歳ニテ保險料金ヲ免除スル終身保險

年 齡	普 通 料 金	僅少増加料金	多大増加料金
二〇	一六、八〇	一八、六六	二一、四〇
二五	一八、七八	二〇、七八	二三、七九
三〇	二一、二〇	二三、五一	二六、八三
三五	二四、四〇	二七、〇二	三〇、七八
四〇	二八、六〇	三一、六六	三六、〇六
五〇	四一、九〇	四六、六〇	五三、二九
六〇	六六、〇〇	七三、八四	八五、一〇

II. 七十歳ニテ保險料金ヲ免除スル終身保險

年 齡	普 通 料 金	僅少増加料金	多大増加料金
二〇	一七、〇〇	一九、四一	二二、一一
二五	一九、一〇	二一、六八	二四、五九
三〇	二一、九〇	二四、六〇	二七、八三
三五	二五、四〇	二八、四八	三二、〇八
四〇	三〇、三〇	三三、七六	三七、九〇
四五	三七、九〇	四一、三四	四六、二九
五〇	四八、七〇	五二、九二	五八、九八
五五	六五、三〇	七〇、六八	七八、二四

III. 保險期間全部ニ涉リ料金ノ支拂六十歳ニテ保險金ヲ支拂フヘキ混合保險

年 齡	普 通 料 金	僅少増加料金	多大増加料金
二〇	二一、三〇	二二、七六	二四、九五
二五	二四、八〇	三一、三一	二八、五九
三〇	二九、六〇	三八、二二	三三、五九
三五	三六、六〇	四九、二四	四〇、七五
四〇	四七、二〇	六九、〇一	五一、七〇
四五	六五、四〇	〇三、三二	七〇、二七
五〇	一〇一、六〇	一二六、七七	一〇七、〇一

グリーン博士ハ其ノ著「Examination for Life Insurance」中ニ於テ生存力少ナキ生命ヲ三種ニ分テリ

- 一、特別危険カ正常危険ニ對シ常ニ一定ノ割合ヲ有スルモノ
 - 二、特別危険カ年齢ノ進ムニ從ヒ増進スルモノ
 - 三、特別危険カ最初ニ大ニシテ後漸次減少スルモノ
- 第一ノ場合ニ於テハI表又ハII表ニ對シテ増加危険ヲ見積レハ可ナリ第二ノ場合ニアリテハ尙外ニ保險期間ヲ短縮スル要アリタトヘハ純死亡保險ヲ混合生存死亡保險ニ變更スルカ如シ第三ノ場合ニ對シテハ委員會ハ十年間危険ノ大小ニ應シタル割増料金ヲ以テ充分ナリト認メタリ
- 兩種ノ危険ニ對スル保險料ハ死亡表ノ二〇又ハ五〇%割増ニ應シテ制定スヘキナリ僅少附加料金ニ在リテハ十年ノ短縮保險料金ノ二〇%ニシテ多大附加料金ハ同様ノ短縮保險料金ノ五〇%トシテ計算ス可シ
- 加入後十年間適用ス可キ附加料金

僅少附加料金	年	齡	多大附加料金
二、二〇		二〇	五、五〇

二、三四	二、五二	二、七六	三、一六	三、九〇	五、一〇	六、九〇	九、六六	二、五	三、〇	三、五	四、〇	四、五	五、〇	五、五	六、〇	五、八五	六、三〇	六、九〇	七、九〇	九、七五	一二、七五	一七、二五	二四、一五
------	------	------	------	------	------	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	-------	-------	-------

以上述ヘタル所ニ依リ次ノ原則ヲ得ヘシ此ノ原則ハ各種ノ生命保險會社ニ於テ採用シ得ヘキ所ノモノナリ

千九百二年夏六月、スカンディネビヤ生命保險會社ニ於テ發議シ可決シタル考案ニ基キ特別危険ニ對スル原則ヲ設クルコト左ノ如シ

- 一、料金割増 此ノ方法タル只増加料金ニ依リテ保險ヲ爲スモノニシテ増加率ハ次ノ表ニ依リテ發見シ得ヘシ表ハ通常會社ノ目錄書中ニ見ルト同様ノ方法ヲ以テ示シタルモノナリ而シテ危険ノ僅少ナリヤ多大ナリヤニ依リ或ハ僅少割増ヲ爲シ或ハ多大割増ヲ爲ス

二、保險期間ノ短縮 此ノ方法ニ二アリーハ死亡保險ノ料金表ニ依リテ申込ヲ爲シタル保險申込ニ對シ混合保險トシテ許諾スル方法ニシテ他ハ混合保險ノ申込ニ對シ保險金支拂期ヲ申込書中ニ指定セシ時期ヨリ短縮スル方法ナリ此ノ場合ニモ危險ノ僅少ナリヤ將タ多大ナリヤニ從ヒ左ノ區別アルヘキハ勿論ナリ

イ、會社通常ノ料金ニ從ヒ只保險期間ノミヲ短縮スルモノ
ロ、期間ノ短縮ト共ニ僅少又ハ多大ノ割増ヲ爲スモノ

三、附加料金 此ノ方法ハ死亡ノ「プロバビリティー」カ契約後一定期間内ハ正常死亡率ヨリ大ナル可キモ其ノ後ニ至リ漸次減少スル場合ニ適用スルモノニシテ加入後最初ノ十ケ年間普通料金ニ對シ附加ヲ爲スモノナリ之カ危險ノ大小ニ依リ僅少附加料金多大附加料金ノ二種アリ

本章述フル所ノ普通特別危險ニ對スル原則ハ「スウェーデン」ニ於テハ千九百三年以來「スカンデヤ」「スベヤ」「チューレー」「ビクトリヤ」「ノルドボレン」諸社ノ採用スル處トナレリ我國ニ在リテハ新契約ノ優ニ三分ノ二ハ是等五會社ノ領有ニ屬スルノ事實ヲ見ハ吾委員會ノ案出シタル方法カ如何ニ我保險界ニ於テ尊重セラレタ

ルカヲ察スルヲ得ヘシ

第二章 生存力少キ者ニ對シ五會社以外ノ採用スル方法

其ノ他ノ會社ニ在リテハ依然トシテ年齢ノ割増又ハ保險種類ノ變更乃至其ノ混同方法ヲ採用セリ

死亡保險ニ於ケル年齢割増ハ申込者ノ年齢ヲ二歳三歳四歳五歳七歳又ハ十歳ノ割増ヲ爲スモノニシテ混合保險ニ在リテハ通常五歳又ハ十歳ノ割増ヲ爲ス但シ保險期間ノ短縮ヲ爲スコトナシ保險種類ノ變更ハ一ナラス或ハ死亡保險ヲ混合保險ニ或ハ混合保險ノ申込ニ對シテ其保險期間ヲ短縮スルニアリ

右述フル年齢割増、保險種類變更ノ外尙實際採用セラル、モノニ左ノ數種アリ

- 一、保險料支拂期間ノ短縮 此ノ方法ハ會社カ終身間料金支拂ヲ爲サシメスシテ十年乃至二十年ノ支拂ヲ約スルカ如キモノナリ
- 二、削減期間 此ノ方法ハ契約後久シカラサル期間内ニ死亡發生スルトキハ保險金ノ一部ヲ支拂フモノニシテ其ノ支拂額ニハ死亡ノ遲速ニ依リ大小アリ
- 三、或ル期間常ニ保險料ヲ高ムル方法 此ノ方法ハ其ノ期間ヲ經過シタルトキ

醫家ノ證明ヲ提出スルコトヲ要スルモノトシ其ノ證明ノ内容如何ニ依リ尙
料金ノ割増ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スルモノトス

一般ニ割増年齢ハ十歳ヲ以テ最高度トナス此ノ點ニ關シ二三ノ會社ハ言明シテ
曰ク危険ニシテ十歳以上ノ割増ヲ要スル如キ大危険ニ對シテハ寧ロ會社ハ之
ヲ保險ニ附セサルヲ有利トスト

是等ノ會社カ受諾セサル危険ニ對シテモ保險ノ利益ニ浴セシメントスル目的ヲ
以テ「スペインスカイ、リッフェル、ゼツクリングス、ボラゲツト」會社ハ「アルラー」ナル一部
ヲ設ケタリ想フニ危険ノ如何ニ不拘總テノ者ノ保險ヲ取扱フトノ義ナリ其ノ「ア
ルラー」保險部ノ料金算定ニ就テハ該會社ハ一方ニ「デンマーク」會社ノ契約ヲ拒絕
シタル五百廿一人ニ就キ作製セル統計表ト地方ニ英國、クレリカル、メデイカル、エン
ド、ゼネラル、ライフ、アツシユアランス、ソサイエティー」ノ同様ナル統計表ヲ基礎トシテ
採用シタリ

元來「アルラー」保險部ハ慢性病患者ノ保險ヲ爲スヲ以テ目的トセルカ故ニ之カ保
險料ハ自ラ高カラサルヲ得ス但シ會社ハ「アルラー」部ニ對シテハ停止期間ノ制ヲ
設ケ第一年ノ死亡ニ對シテハ已納料金ニ利子ヲ添ヘテ還付シ第三年目ノ死亡ニ
對シテハ其ノ五割、第四年目ノ死亡ニ對シテハ其ノ七割五分ヲ支給スルコト、セ
リ尙「アルラー」部ノ被保險者ハ會社ノ他ノ被保險者ト別ニ獨立セル取扱ヲ受クル
モノニシテ此ノ保險部ニハ特別ノ資金ヲ有ス若シ此ノ資金ニシテ不足ヲ生スル
トキハ保險金額ヲ削減スルコト、セリ他方ニ會社ハ此ノ被保險人ニ對シテハ一
種ノ便法ヲ設ケ若シ後日醫師ノ健康證明書ヲ提示スルトキハ通常保險ニ轉換シ
得ルノ途ヲ開ケリ此ノ恩典タル選抜ノ點ニ關シテハ尙改良ノ餘地ナシトセス今
參考ノ爲メニ「スペインスカイ」會社「アルラー」部ノ保險料ト委員會ノ之ニ對スル僅少
料金多大料金トヲ比較スヘシ但シ本表ハ「千クロイネ」ニ對スル年料金ヲ示シタル
モノトス

甲、二十ヶ年間「料金」支拂ノ死亡「保險」 「クロイネ」

年 齡	ス ペ ン ス カ イ	僅 少 料 金	多 大 料 金
二五	三四、〇〇	二〇、七八	二三、七九
三五	三九、八〇	二七、〇二	三〇、七八
四五	五二、八〇	三八、〇二	四三、三五
五五	七二、九〇	五八、一四	六六、七一

乙、五十五歲迄料金支拂ノ混合保險

年 齡	ス ペ ン ス カ ー	僅 少 料 金	多 大 料 金
二五	四二、四〇	三〇、〇一	三二、〇八
三五	五八、〇〇	四七、一四	四九、三五
四五	一一二、一〇	一〇〇、五三	一〇二、九二
五五			

第三章 委員會ニ於ケル其ノ後ノ研究

委員會カ最初ノ會議ヲ爲シテ死亡率ニ對スル議決ヲ爲シテ以來今日ニ至ル迄各種ノ死亡率ノ研究ヲ爲セリ其ノ内ニハ

甲、會社カ特別條件ヲ以テ採用シタル被保險者ノ死亡率

乙、會社ノ拒絶シタル者ノ死亡率

ノ研究アリ其ノ他委員會カ特ニ意ヲ用ヒタル問題ニ就キ茲ニ述ヘン就中千九百四年ノ「コペンハーゲン」ニ於ケル「スカンディネビヤ」生命保險會議ニ提出シタル三個ノ問題ハ最モ興味アルモノナリ

第一節 歐洲外ニ於ケル危險

外部「スカンディネビヤ」保險大會議カ此ノ種ノ特別危險ニ應スヘキモノトシテ主張セル方法ヲ研究シタル結果委員會ハ稍異ナリタル結論ニ達シ斯ル諸般ノ危險ニ對シ統一的處置ヲ爲スハ不可能ナリトセリ此ニ於テ委員會ハ自ラ獨立シテ研究ノ步ヲ進メントシ「スウェーデン」地學協會顧問「グンナーアンテルゾン」博士ノ指導ヲ仰クコト、セリ博士ノ提議ニ基キ危險問題ノ取扱ニ就キ一新概念ヲ研究ノ基礎ト爲セリ郵便聯絡地域是レナリ

歐洲人ニ對シ外國ニ於ケル自然界ノ狀態生活狀態ニ關シテ生スル危險又ハ外國人ト接觸スルニ依リテ生スル危險ハ是等ノ地方カ文明國ト接觸セル程度如何ニ依リテ素ヨリ一樣ナル能ハサルコトヲ起點トシテ委員會ハ順次其ノ研究ヲ進メントセリ而シテ之カ爲メニハ郵便聯絡地域ハ客觀的界線ヲ示スモノニシテ頗ル便利ナルモノナリ仍テ少ナクモ週一回外國トノ間ニ規則的ニ郵便聯絡ノ存スル歐洲外ノ地域ヲ郵便聯絡區域トシテ取扱フコト、シ尙此ノ聯絡地域内ニ於ケル主タル郵便官署ヨリ廿五「キロメートル」以内ノ地亦郵便聯絡地域ト認メタリ斯クシテ研究ノ結果左表ノ如ク各地方ト料金割増歩合トヲ表示シ得ルニ至レリ

亞細亞 地方

亞細亞

○露領亞細亞(但シ左ノ地方ヲ除ク)

イ、亞細亞北氷洋沿岸

ロ、「カイシール」半島、新シメリヤ諸島

「カーナ」以東ノ北東「シベリア」

○亞細亞「トルコ」

イ、地中海沿岸ノ小亞細亞

ロ、小亞細亞内部「クック」其ノ他ノ大ナル旅行

社ニ於テ爲ス旅行

○ベルシア、アフガン、ベルヂスタン

○シヤム、佛領印度支那、蘭領印度、ヒリツピン群島

○支那

イ、開港地、ホンマン、抗州

ロ、其ノ他

一、揚子江及其ノ以内ノ地方

二、揚子江以北

危險ニ對スル最低增加
料金百分率
地域内 地域外

一、 一、
一、 二、五

一、 二、五
二、五 二、五

二、五 二、五
二、五 四、

一、 一、
二、五 一、

- 日本
- 臺灣
- 印度洋ノ小諸島及群島
- 以上外ノ亞細亞

亞弗利加

○「マロツク」佛領北部亞弗利加「ツリボリー」「エジプト」

○「クック」社其ノ他ノ大旅行社ニ於テスル「エジプト」旅行ナレハ

○アビシニア

○西部亞弗利加「モロツコ」以南「ケープコロニー」以北小殖民地

○太西洋諸島

○ソマリランド

○英領東亞弗利加

イ、鐵道線「ニアンサ」「ビクトリア」「モンバサ」及是等ノ湖水ト汽

船聯絡アル地方

ロ、其ノ他ノ地方

○サンジバル

○獨領及蘭領東亞弗利加

○「ケープコロニー」「ナタール」「オレンジ」「トランスバール」

○マダガスカル

二、五 一、
四、 二、五

二、五 二、五
四、 四、

四、 四、
四、 四、

二、五 二、五
四、 四、

二、五 一、
四、 四、

特別危險ニ對スル割増料金ノ問題

○以上外ノ亞弗利加

亞米利加

○加奈陀

イ、六十度以南

ロ、六十度以北

○アラスカ

○合衆國(但シ左ノ地方ヲ除ク)

南「カロリナ」「シヨージヤ」「フロリダ」「アラバマ」

「ミスシツピー」「ルイジヤナ」「アルカンサス」「テキサス」

「ニューメキシコ」「アリゾーナ」

○「メキシコ」(但シ左ノ地方ヲ除ク)

「メキシコ」灣沿岸地方、中央亞米利加共和國「キューバ」

「カリヒヤン」海ノ歐洲占領地「パナマ」「コロンビヤ」

「ベネジユラ」「ギヤナ」「エクエードル」

○「ブラジル」(但シ左ノ地方ヲ除ク)

イ、「アマゾナー」「グラオパラ」「マランホー」

「ビヤンニール」「セヤラー」「リオグランウドノルト」

「パラヒバ」「ペルナンブコ」「アラゴワイ」

ロ、「サンター」「カタリナー」「クオグランウド、トスル」

七〇

四、

一、
一、
一、
一、

二、五
一、
二、五
四、

一、
二、五
四、

二、五
二、五
四、
二、五

ハ、黃熱灣

○パラゲー

○「ペリユー」「ボリビヤ」

○「ウルゲー」「アルゼンチン」「チリ」「ホークランド」諸島

オーストラリヤ

○オーストラリア聯邦「ニュージールランド」「タスマニヤ」

○大洋洲(「ニューギニー」及「ビスマルク」群島ヲ除ク)

極地々方

○「アイスランド」「グリーンランド」(丁領)「スピッツベルゲン」

○安全ナル旅行方法ニ依リテ其ノ他ノ極地地方ヲ旅行スル場合

イ、超冬セサルモノ

ロ、越年スルモノ

二、五
一、
一、
二、五

四、
二、五
二、五
四、
二、五

四、
二、五

旅行者トシテ或ハ事業上ノ用向ヲ以テ一時的ノ旅行ヲ上述ノ地方以外ニ企ツル者ニ對シテハ夫々相當ノ割増料金ヲ爲ス可シト雖モ斯ル個々の者ニ對スル一般の附加率ヲ定ムルコト難シ
委員ハ割増料金ノ大小ヲ標準トシテ地球表面ヲ四種ニ分テリ

一、割増料金ヲ要セサル地方

特別危險ニ對スル割増料金ノ問題

七一

- 一、僅少割増料金ノ地方
- 三、中傭割増料金ノ地方
- 四、最大割増料金ノ地方

之レナリ。
委員ノ提出シタル是等ノ附加率ハ「スウェーデン」生命保險會社ノ漸次採用スル所トナレリ。

第二節 被保險者ノ自殺

自殺ノ研究ハ委員會ノ本來ノ目的ニハアラサリシモ當時存セシ「スカンディネビヤ」會議ニ材料ヲ提出スルノ目的ヲ以テ爲シタルモノニシテ稍興味アル點ヲ簡單ニ述ヘン

自殺者數七百四人ノ内自殺原因ノ明カナリシモノ三百三十人全ク不明ナリシモノ三百七十四人ナリ其ノ結果明ニシ得タル所ヲ列擧スレハ

自殺ノ平均年齢	四二、四歳
平均保險期間	八、八年
保險金額(七百四人)	五、〇六七、〇〇〇「クロイン」

此ノ内完全ニ保險金ヲ支拂ヒタルモノ

支拂ヲ拒絕シタルモノ	二、三六四、七八五「クロイン」即チ四六、七%
一部ノ支拂ヲ拒絕シタルモノ	五三八、四七六「クロイン」即チ一〇、六%
會社ノ實際支拂ヒタル額	四二、七%
五百六萬七千「クロイン」ノ保險金額ニ對シテ積立タル保險料カ	三、〇一二、九三四「クロイン」五九、五%
	八六一、三〇三「クロイン」一七%

第三節 梅毒

委員會ノ最初ノ研究ニハ生存力ノ低キ者ノ數團ヲ區別シタルモ此ノ各團間ニ於テ危險ノ性質ヲ全然異ニスルモノアルコトニ就キテハ深ク意ヲ用ヒサリキ被拒絶者ノ死亡率及特別條件ヲ以テ契約ヲ締結シタル者ノ死亡率ノ研究ハ一般世人ノ間ニ存スル誤解ヲ正サントスル研究事業ノ端緒ト見ルヲ得ヘク委員會ノ第一ノ研究ハ主トシテ梅毒ノ研究ナリ
委員會顧問「チベリユース」博士ハ已ニ存スル會議ニ是等ノ研究及其ノ結果ニ就キ其詳細ヲ報告セリ

余ハ茲ニ其全部ヲ掲クルノ煩ヲ避ケ「スウェーデン」保險會社カ從來試驗シタル結果及生命保險會社顧問醫カ列國會議ニ於ケル醫長ノ同意ヲ經テ決議シタル所ヲ掲クヘシ。

梅毒ノ證明アル保險申込人ニ對シテハ混合保險ニ在リテハ五ケ年其ノ他ノ保險ニ在リテハ六ケ年ノ年齢ノ割増ヲ爲スコトヲ要ス。

「コペンヘーゲン」ノ「スカンディネビヤ」會議ニ對シ本委員會ノ決議ヲ通牒セルニ同會議ハ委員會カ梅毒ノ死亡率ニ對スル研究ノ續行ヲ希望セリ此ノ希望ニ從ヒ委員ノ爲シタル研究ノ詳細ハ曩ニ述ヘタル報告書中ニ之ヲ見ルヲ得ヘシ終ニ一言セントスルハ從來疑ハシキ疾病ニ對シテ契約ノ際會社ノ要求シタル制限的條件ニ對シテハ尙改良ノ餘地ヲ存スルモノナルコト之レナリ。

第四章 結核其ノ他ノ特別危險ニ對スル研究

第一節 結核

曩ニ「スカンディネビヤ」保險會社ニ際シ委員ハ結核ノ生命ニ對スル影響ニ關シ研究ノ歩ヲ進メラレントコトヲ動議シタルコトアリ委員會ハ此ノ種ノ研究カ非常ナル

困難ヲ伴フコト及豫メ一定ノ計畫ヲ建テ、之ヲ爲スニ非レハ到底豫期ノ成果ヲ舉ゲ得サルヘキコトヲ知得シ居リシヲ以テ一會社ヲ選ミ之ニ就キ試驗的ニ研究ヲ爲スノ必要ナルヲ信シタリ即チ「チューレ」會社ヲ以テ之ニ當テ其ノ指導ヲ「ヘドレン」博士ニ依嘱セリ組織的ニ研究ノ歩ヲ進メントスル目的ヲ以テ初メニ計表ノ形式ヲ定メ統計用紙ヲ一定シ而シテ先四百七十ノ死亡事故ヲ以テ研究材料トセリ其死亡者中或ハ契約締結當時結核ノ徵候多少ニ不拘存シタルモノアリ或ハ死亡證明書中ニ結核ノ徵候存セルコト及其ノ爲メニ死亡シタルコトヲ明ニセルモノアリ此ノ材料ヲ以テ爲シタル研究ノ詳細ハ今茲ニ記述スル要ナカラん次ニ遺傳的家族關係已往症等苟モ結核性ノ徵候アルモノ八千二十二人ヲ取リテ之カ研究ヲ爲セリ

イ、父母ノ結核 件數 以上ノ死亡者

一、父 二七二 一一

二、母 三五九 二一

三、父及母 一〇 一

ロ、兄弟ノ結核

一、一人 一、一九一
 二、二人以上 一九七
 六、已往症
 一、結核又ハ結核性疾 五八九
 患ノ虞アルモノ
 二、肺炎 二、〇一三
 二、現今健全状態ニ在ルモノ
 一、肺ニ異状アリ 二七
 二、體格劣等 一五四
 ホ、混 合
 一、遺傳ト入ノ一 一一四
 二、遺傳ト二ノ一 一一
 三、遺傳ト二ノ二 三九一
 四、入ノ一ト二 二一四
 へ、其ノ他 二、四八〇
 合 計 八、〇二二

勿論死亡率ノ正確ナル裁定ヲ爲スニハ右ニ分ツカ如キ數字ハ甚タ無意味ナリ茲
 ヲ以テ委員會ハ實際ノ死亡數ト豫定死亡數トヲ比較シテ其ノ不一致ノ點ヲ發見
 セントセリ此ノ比較ニ就キテハ「チュール」會社カ第二十五營業年度末即チ千八百
 九十七年度發刊シタル紀念冊子ノ内ヨリ會社ノ自ラ經驗セル死亡表ヲ採用セリ
 死亡過多ノ存セシモノ左ノ如シ。
 イノ二、母ノ「結核」

年 齡	豫 定	率	實 際	死 亡
二五—三四		四、七		八
三五—四四		五、八		五
四五—五四		三、九		五
二五—五四		一四、〇		一八

ニノ二、體格劣等

年 齡	豫 定	率	實 際	死 亡
二五—三四		二、一		三〇
三五—四四		二、四		一七

特別危險ニ對スル割増料金ノ問題

ホノ三、遺傳及體格劣等

年 齡	豫 定	率	實 際	死 亡
四五—五四		二、九		一
五五—六〇		一、三		三
二五—六〇		九		六一

ホノ四、既往症及結核性又ハ肺病徵候アリ體格不良ナルモノ

年 齡	豫 定	率	實 際	死 亡
二五—三四		五、〇		七
三五—四四		六、四		一三
四五—五四		四、一		一〇
五五—六〇		〇、九		一
二五—六〇		一六、〇		三一

年 齡	豫 定	率	實 際	死 亡
二五—三四		二、六		七
三五—四四		四、二		二
四五—五四		三、六		五
五五—六〇		〇、九		一

年 齡	豫 定	率	實 際	死 亡
二五—六〇		一三、〇		一五

ロノ一、ハノ一ニ於テ過度ノ死亡ヲ生セサリシハ注意スヘキ點ナリ想フニ這ハ疑モナク材料ノ不良且僅少ナリシモノニシテ從テ本表ハ充分ニ信ヲ置クコト能ハス又本表ニ依レハ體格不良又ハ衰弱ハ單獨ニ或ハ他ノ症狀ト結合シテ常ニ大ナル死亡ヲ發生スル傾アルモ元來此ノ研究モ餘リ價値ナキモノナル以上之亦深ク信ヲ置ク能ハサルナリ已往ノ肺炎ハ生存年齡ニ有害ナル影響ヲ及ホサス吾人ハ左表ニ依リテ其ノ然ル事實ヲ證明セン。

ハノ二、肺炎

年 齡	豫 定	率	實 際	死 亡
二五—三四		二一、八		八
三五—四四		三四、四		一四
四五—五四		三一、六		八
五五—六〇		九、九		六
二五—六〇		九八、一		三六

以上述へタルモノ、外委員ハ曩ニ列記シタル病的事故ト其ノ他ノ原因ノ存スル爲メ「チュール」會社カ拒絶シタル者ニ對シテ一ノ「結論」ヲ得ント試ミタリ其ノ觀察人員數一、〇一四人ニシテ内死亡シタル者一〇一人ナリ勿論吾人ハ斯ル小數ノ材料ニ依リテ其ノ間ニ種類ヲ分ツ能ハス只年齡階級毎ニ全材料ニ對スル死亡ノ程度ヲ計算シタルノミ。

被拒絶者（結核又ハ結核性ノ虞アリシ爲メ拒絶セラレタルモノ）

年 齡	觀察年數	死亡者	死亡強度	年 齡	觀察年數	死亡者	死亡強度
一五—二〇	一六二	三	一、八五二	一五—二〇	三五—四〇	一三六	四、〇〇八
二〇—三〇	二〇七七	一九	〇、九一五	二〇—三〇	四〇—四五	一二九	三、二〇九
三〇—四〇	三六八五	四〇	一、〇八五	三〇—四〇	四五—五〇	一〇八	二、四〇九
四〇—五〇	二四一七	二四	〇、九九三	四〇—五〇	五〇—五五	一〇三	二、五八九

要スルニ本表ニ依リテ見レハ結核性ノ徵候アルモノ、死亡率ハ其ノ他ノ原因ニ依リテ拒絶セラレタル者ノ死亡率ニ比スレハ低シト言ハサル可カラス

第二節 海員ノ死亡率

「スウエーデン」生命保險會社ハ各國隨所ノ海洋ヲ航海スル海員ニ對シテハ通常三

歳ノ年齡割増混合保險ニ在リテハ五歳ヲ爲ス之ニ反シ自國ノ沿海岸港灣、河川運河ヲ航行スルヲ業ト爲スモノニ對シテハ別ニ割増ヲ爲サス
此ノ方法ノ合理的ニ非サルコトハ近時漸ク世人ノ注意ヲ喚起スル處トナレリト雖モ此ノ方法ニ關スル統計材料ノ乏シキ爲メ未タ其ノ改良ニ指ヲ染メシモノナシ然レトモ千八百七十九年乃至八十二年ノ「スウエーデン」統計表ニ依レハ海員ノ死亡率ハ一種獨特ノ原則ニ從フモノナルカ如シ即チ英國十七會社ノ死亡表ニ對スル百分率ヲ以テ海員ノ死亡率計數ヲ計算スレハ次ノ如シ

年 齡	年 齡	年 齡	年 齡
一五—二〇	四九〇、%一四	三五—四〇	一三六、%〇八
二〇—二五	三一七、%三三	四〇—四五	一二九、%〇九
二五—三〇	二一六、%二五	四五—五〇	一〇八、%〇九
三〇—三五	一三八、%六四	五〇—五五	一〇三、%八九

五十五歳以上ノ年齡ニ及ヒテハ海員ノ死亡率ハ稍々順潮ニ向フモノニ似タリ特ニ吾人ノ意ヲ惹クハ年齡階級ノ低キモノニアリテ死亡ノ激シキコトニ在リ想フニ斯ノ如キハ彼等カ好シテ死亡原因タル危險ヲ浸スニ因ルナラン統計ニ依レハ

高等海員ノ死亡率ハ三十二、四%其レ以外ノ船員ニ在リテハ實ニ五二、八%ニ達ス之ニ反シ同年齡ニ起ル工業ニ從事スルモノ、死亡率ハ一一、五%ニ過キス
委員ハ目今會社ノ經驗材料ニ依リ被保險海員ノ死亡率研究ニ從事シツ、アリ本
研究ハ此ノ秋ニ至リ完了ノ見込ナリ

第三節 自ラ脱退シタル者ノ死亡率

脱退者カ脱退セサル被保險者ノ死亡率ニ如何ナル影響ヲ爲スヤ之ニ關スル見解
一ナラサルナリ已ニ千八百五十年代ニ於テ本問題ハ「アクチュアリー協會誌」上ニ
研究ノ題目トナリシコトアリ其ノ後時々是ニ論及シタル者素ヨリ一二ニ止マラ
サルナリ今參考書ヲ一覽スルニ此ノ問題ニ就キ意見ヲ發表シタル者ノ内ニハ有
名ナル保險學者少カラス「ハイガム」「スプレトグ」「キング」「ドレー」「マンリー」「ベイレ」「ビ
ュー」「メークハム」「チャタム」「マツククリントツク」「ハイデュー」「カルツプ」「ウヘマターガ
ト」等之ナリ人或ハ思ヘラク脱退ハ會社ニ不利益ナル自選行為ニシテ専ラ生存
ノ見込大ナルモノハ自然ニ脱退ス其ノ結果殘留被保險人ノ死亡率ハ益々昇騰ス
ヘキコト二三者ノ信スル所ナリト雖モ他一派ノ論者ハ如斯斷定ハ全ク事實ニ反
スルモノトシテ排拆スルヲ見ル論者ハ孰レモ自己ノ主張ノ正確ナルヲ數理統計

上ヨリ證明セント欲シ或ハ其ノ主論ノ證明材料トシテ特ニ死亡率ト脱退者少ナ
キ數會社ノ死亡率ト比較シ或ハ選擇自由ノ權能ヲ認メラレタル被保險者例ヘハ
任意ニ混合保險ヲ選擇シ得ル如キ被保險死亡率ヲ研究シ或ハ専ラ哲理的的心理的
方面ノ研究ヨリ此ノ問題ヲ解決セント期セリ本問題ニ對スル過去五十年間ノ論
争ハ益々議論ノ解決ヲ困難ナラシメ未タ反對論者ヲ首肯セシムルニ足ルカ如キ
有力ナル議論アリシヲ聞カス勿論脱退者間ノ死亡率ヲ研究スルモ或ル結果ニ到
達シ得ヘシト雖モ人口千萬ヲ以テ數フルカ如キ大國民ニ付キ斯ル死亡率ヲ論定
センコトハ至難ノ業ニ屬ス脱退者ニ關スル從來ノ研究ニ依レハ「スカンディネビヤ」
諸國ニ於テ嘗テ此ノ種ノ事業ヲ企テ多少ノ成果ナキニ非サリシト雖モ元來脱退
者ハ契約當時乃至其ノ後久シカラサル期間ノミ會社ト接觸交通スルニ過キス從
テ會社ニ脱退者ノ總テヲ研究材料トシテ調査スルコト不可能ノコトニ屬ス只脱
退者中七八割ノ者ニ就キ正確ナル報告ヲ得ハ其ノ結果ハ比較的信頼ニ價スルモ
ノト見サル可カラス如斯研究ハ委員會ノ直接ノ目的ニ非スト雖モ其ノ解決ハ大
ナル價值ヲ有スル者ナルカ故ニ余輩ハ「スカンディネビヤ」保險會議ニ動議シテ此ノ
種ノ權限ヲモ委員會ニ附與セラレンコトヲ以テセリ會議ハ既ニ此ノ請求ニ對シ

承諾ヲ與ヘタルヲ以テ目下委員會ハ之カ材料蒐集中ニ屬セリ。
 茲ニ注意ス可キハ「スカンデヤ」會社カ其ノ「アクチユアリ」タル「フレードホルム」博
 士ヲシテ同様ノ研究ヲ爲サシメ其ノ結果ハ該會社ノ第五十年紀念號中ニ之カ詳
 細ナル記録ヲ存ス此ノ事業ハ一萬五百四十五人ノ脱退者中二百七十三人即チ二
 一％ノ外悉ク之ヲ調査材料ニ供セリ殘金ノ一萬三百二十二人ノ内死亡者二千
 二百三十八名ニ達シタリ「フレードホルム」氏ハ脱退者ノ全部ヲ調査材料ニ供スル
 トキハ正常生命ニ在リテハ脱退ニ依リテ死亡率ニ惡シキ影響ヲ及ホスモノニア
 ラス又異常生命ニ在リテハ脱退者(全部又ハ一部ノ脱退者)ノ死亡率ハ殘留者ノ死
 亡率ト全然一致スルモノナル可シト言ヘリ

此ノ比較研究ハ千八百九十四年迄行ハレタルモ其ノ材料豊富ナリト言フ可カラ
 ス且被保險ノ種類比較的限局セラレタルヲ以テ其ノ結果タルヤ素ヨリ深ク信ヲ
 置ク能ハサルモノアリ吾人ハ委員會ノ事業ノ一日モ早く完成センコトヲ期ス

第五章 危險職業

危險職業トハ何ソ「スウェーデン」保險會社ハ別ニ一定ノ用例ニ從フコトナシ二三ノ

會社ハ手工業者其ノ他健康ニ有害ナル業務ニ從事スル者ニ對シテハ專ラ混合保
 險ヲ以テ應スル定メヲ爲スコトアルモ他ノ會社中ニハ斯ル制限ヲ置カサルモノ
 アリ或ル會社ハ年齡割増ノ方法ニ依リ或ハ保險料ノ何割ヲ以テ割増料金ト爲ス
 コトヲ定ム而シテ此ノ附加料金ハ終身間タルコトアリ或ハ當該職業ニ從事スル
 間ニノミ限定スルモノアリ
 職業危險ノ問題ニ就キ今日委員會ハ盛ニ之カ研究ヲ進メツ、アリ本事業ノ完成
 ノ曉ハ保險會社ヲ裨益スル所蓋シ鮮少ナラサルヘシ
 然レトモ千九百五年ノ冬本問題ニ就キ少シク説明ヲ爲シタルモノアリ多數ノ「ス
 ウェーデン」會社ハ被保險者カ危險ナル職業ニ轉職シタル場合ノ處置ニ就キ何等ノ
 規定ヲ設ケス從テ被保險人一度保險ニ加入スル以上爾後其好ム所ニ從ヒ自由ニ
 職業ヲ選擇シタリ然レトモ一二ノ會社ニ在リテハ約款ヲ以テ契約ニ於テ指定シ
 タル職業ニ變更セル場合之ヲ會社ニ告知スル義務ヲ負ハシム

第六章 戰爭ノ危險

二三ノ會社ハ戰爭ニ關係シタル被保險者ニ對シ自己ノ義務ヲ履行スルコトヲ否

認ス又他ノ會社ハ戰爭危險ヲ保險ニ附スルコトヲ拒マサルモ而モ戰爭危險ヲ有
 スル者ニ對シテ如何ナル處置ヲ爲スヘキカニ就キ一定ノ規定存セス主トシテ支
 配人ノ見ル所ニ一任シテ其ノ戰爭危險ニ對スル條件ヲ定ムルモノ、如シ然レト
 モ多數會社ハ本問題解決ノ必要ヲ認メ近年ニ至リ戰爭危險ニ對スル保險ノ種類
 等ニ對シ調査スルモノ少カラス

ノルドステールナン會社ハ一危險ニ對シ一萬クローンノ範圍内ニ於テ戰爭保險
 ノ締結ニ應ス「戰爭危險ハ分チテ之ヲ三種トナス其ノ孰レニ在リテモ戰爭ノ開始
 サル、ヤ保險金額ノ六、四又ハ二%ノ割増ヲ爲シ之ヲ一回ニ拂込マシムルノ契約
 ヲ爲ス」會社ハ戰爭危險ニ對シテ特ニ設置シタル資金ヲ以テ之カ支拂ニ應ス」ト云
 フカ如キ戰爭保險ニ關スル模範の規定ヲ有ス

「チユーレ」會社ハ千八百九十五年以來戰爭保險ニ從事スルコト、ナレリ其ノ規定
 ハ他會社ニ於テ多少ノ變更ヲ加ヘ漸次ニ採用セラル、所トナリシ所ニシテ大約
 左ノ如キモノナリ

一危險ニ對スル最高限ハ一萬クローンニシテ其ノ戰爭料金ハ戰爭開始ノ際即チ
 動員令發布ノ後八日以内ニ拂込マルヘキモノニシテ其ノ割合ハ左ノ如シ

歩兵、砲兵、海軍々人	一〇%	官	六%
騎兵	七	下士及兵卒	四
非戰闘海員	六		四
工兵	五		三
輜重兵	四		三
軍醫衛生部隊	五		三
其他ノ非戰闘員	三		四

但シ其ノ計算ニ當リテハ四捨五入ノ方法ニ依ルモノトス

平和條約締結ノ後一ケ年内ニ會社ハ戰爭保險ノ精算ヲ爲シ若シ戰爭中戰爭資金
 ノ全部カ拂出サレサルコトヲ發見シタルトキハ其ノ過剰金ノ四分ノ三ヲ拂戻ス
 コト、セリ

前ニモ言ヘルカ如ク「チユーレ」會社ニ於ケル是等ノ規定ハ他ノ會社ニ對シ模範ヲ
 示シタルモノナリト雖モ保險料ノ如キ必スシモ其儘採用セラレタルニアラス或
 ハ「チユーレ」會社ヨリモ低キ料金ヲ用ヒ或ハ一部ニ對シテハヨリ高キ料金ヲ課シ
 タルモノアリ或ハ戰闘員ト非戰闘員トノ間ニ截然タル區別ヲ爲シ戰闘員ニ對シ
 テ保險金額ノ一割非戰闘員ニ對シテ五分ノ割増ヲ爲スコト、シタルモノアリ。斯

ル問題ニ就キ「スウェーデン」保險界ニ在リテハ宜シク各會社共同一致シテ合理的料
金ヲ採用シ以テ戰爭ノ如キ國民的災厄ニ對シテ料金負擔ノ公平ヲ期スルコトノ
甚必要ナルヲ感ス千九百五年ノ冬戰時効力ヲ有スル保險條款ノ規定ニ就キ一ノ
提議ヲ爲シタリ是ハ會社ノ歡ンテ迎ヘタル所ニシテ次ノ如シ

- 一、 戰爭ニ從事スル被保險者ハ母國外ニ在ルト或ハ觀戰員トシテ母國ノ領域
内ニアリテ船舶中ニアルトヲ問ハス苟モ母國ノ爲メニ戰闘員又ハ非戰闘
員トシテ盡スモノ其ノ他戰爭ニ關係ヲ有スル者ニシテ戰爭中ニ死亡シ若
クハ戰爭後一年內ニ死亡シタル者其ノ死亡ノ原因ニシテ戰爭ニ在リタル
場合——契約ニ反對ノ明言ナキ限り——積立金額ヲ支拂フモノトス
戰爭延滞ノ爲ニ契約ヲ解除セラレタル場合ニ於テ戰爭ノ終結後一年內ニ
延滞料金ヲ支拂フトキハ契約ハ復活ス但シ其ノ復活シタル契約ハ前項ノ
條規ニ從フ
- 二、 被保險者カ外國ノ戰闘員又ハ非戰闘員トシテ戰爭ニ從事シ又ハ之ニ關係
シタル場合保險契約ハ——反對ノ明言ナキ限り——其ノ効力ヲ失フ但シ
此ノ場合ニ於テモ積立金額ヲ支拂フ

梅毒ニ關スル特別危險ノ研究

瑞典「テイゼリウス」氏述

「スカンディネヴィヤ」ノ委員會カ特別危險ノ研究ヲ爲スニ當リ梅毒ニ關スル問題ハ其
ノ特ニ重キヲ置キタル所ナリ此ノ研究ハ今尙續行中ニ屬ス此ノ委員會ニ材料ヲ
提供スヘキ會社中二三ノモノカ尙其ノ材料ヲ供セサルニ依レリ然レトモ千九百
四年ノ「コペンハーゲン」ノ會議ニハ此ノ問題ニ關シ已ニ一應ノ報告ヲ爲シ得ル程
度迄進行セリ

今日梅毒ト生命保險トノ問題ハ末々世界的ニ公表セラレサルヲ以テ委員會ノ事
業ニ就キ一應ノ紹介ヲ爲スハ本員ノ光榮トスル所ナリ

第一節 材料ノ蒐集

材料ハ此ノ目的ニ供スル爲メ特ニ定メタル計畫ニ從ヒ醫學的智識アルモノ、補
助ノ下ニ多數ノ會社ヨリ之ヲ蒐集セリ先保險申込ノ診斷書ヲ檢查シ書中梅毒又
ハ疑似梅毒ノ記事アルモノハ總テ採用シ左ノ如キ様式ニ記入スルコト、セリ(第
一圖)

圖二第

前同斷	
-----	--

色 褐

圖二第

注	觀加脫出加脫	國籍	申込番號
	察入退生入退		
	期年年月月月		
	間齡齡日日日		
		條件	
		年	
		月	
		日	

色 白

圖一第

號番込申		籍國		附日	條件	脫退原因	摘	要
年	月	年	月					
				加入	死亡			
年	月	年	月			感染ノ年		
						死亡ノ原因		

(特別危険調査委員用紙梅毒調査掛用紙 (會社ノ名稱))

申込人ノ名前ハ特ニ用紙中ニ記入スルヲ避ケタリ加入年月トシテハ保險ノ申込
カ再三同一人ニ依リテ爲サレタル場合ニ於テハ感染後第一ノ申込ヲ採用セリ第
二圖ハ其ノ後ニ至リ改正ヲ加ヘタルモノナリ(第二圖)

白色用紙ハ觀察期間終了ノ際千九百一一年ノ末日尙生存シ或ハ其ノ以前ニ脱退シタルモノニ對シ之ヲ用ヒ褐色用紙ハ同期間内ニ死亡シタル者ノ用ニ供セリ

第二節 材料ノ範圍

千九百四年ノ中頃ニ在リテ材料ニ提供シタル會社ハ「スウェーデン」會社六「デンマーク」一「ノールウエー」一「フィンランド」一即チ凡テ九會社ナリ

會社件數	通常料金ヲ以テ採用シタル者		料金割増ニ依レルモノ採用シタル者	
	件數	金額	件數	金額
計	五七一	二二二六	二四三七	九四九
	三四五	一二九	一一七	九九
	三四	一	二七	七
	一〇一五	二七三	五〇五	二二七
	七一〇六	二七二八	三〇八六	一一九二

其ノ後「スウェーデン」一會社ヨリ材料ヲ提供シタレトモ之ニ對シテハ其ノ當時委員ハ結核ノ問題ニ就キテモ研究ヲ爲シツ、アリシヲ以テ診斷書ヲ梅毒ト結核トニ二重ノ檢定ヲナスコトヲ非トシタリ材料ハ比較的多カリシト雖モ其ノ研究ノ結果ニ對シテ特ニ重大ナル變化ヲ及ホス程大ナラス

第三節 材料ノ整理

從來ノ調査ハ専ラ保險ニ加入シタル者ニ就キ之ヲ爲シ被拒絕者ニ對シテハ之ヲ行フコトナカリキ委員會ハ各種ノ様式ヲ用ヒテ國籍及生年月日ノ同一ナルモノニ就キテハ其ノ混亂ヲ避クル爲更ニ當該申込人ノ頭字ヲ記入シ以テ其ノ區別ヲ爲セリ斯クシテ左表ニ示スカ如キ結果ヲ得タリ

普通料金表ニ依ル者 割増ニ依ル者 全材料	件數			百分率
	件數	死亡者	百分率	
普通料金表ニ依ル者	二五一	四四〇	一七、五	
割増ニ依ル者	二八六四	四二三	一四、八	
全材料	五一七五	八五〇	一六、四	

全材料ノ生存者數カ前二者ノ和ニ等シカラサル所以ハ一人ニシテ或ル場合ニハ普通料金ヲ以テ保險セラレ或ル場合ニハ割増ヲ以テ保險セラレタルカ故ナリ本表ニ依レハ普通料金ヲ以テ保險シタルモノ、死亡率ハ割増被保險者ニ比シテ遙ニ大ナリ其ノ然ル所以ハ想フニ實際ニ於テ梅毒感染者カ感染後直チニ加入スルコトナク已ニ數年ヲ經タル後加入スルモノ多シ從テ割増被保險者ニ比スレハ彼等ハ年齡多キ者ナルニ依ル今エヲ以テ觀察年齡ヲ示スモノトシ

u^x 普通料金被保険者ノ死亡程度
 u''^x 特別割増金被保険者ノ死亡程度
 u^x 兩種被保険者ノ死亡程度

トスレバ「コペンハーゲン」會議ニ提出シタル報告表ニ依レハ五ヶ年ノ年齢團ニ對スル u^x 及 u''^x ニ就キ注意スヘキコトハ前者ハ後者ニ比シテ原則トシテ其ノ多キコト及觀察ノ數ハ兩種孰レモ甚少ナカリシコト之ナリ今全材料ニ對スル計表ヲ年齢團ニ分チテ示サハ左ノ如シ

年 齡	觀 察 年 數	死 亡 者 數	死 亡 程 度
二〇—二五	五六六	三	〇、〇〇五三〇
二五—三〇	三九三〇	三四	〇、〇〇八六五
三〇—三五	八五七四	六四	〇、〇〇七四六
三五—四〇	一〇七二四	一二八	〇、〇一一九四
四〇—四五	九九三一	一二七	〇、〇一二七九
四五—五〇	七四二〇	一七四	〇、〇二三四五
五〇—五五	四七二七	一二一	〇、〇二五六〇
五五—六〇	二六三八	九一	〇、〇三四五〇

六〇—六五	一二二九	五六	〇、〇四五五七
六五—七〇	四八四	三四	〇、〇七〇二五
七〇—七五	一四六	一五	〇、〇一二七四
七五—八〇	四一	一	〇、〇二四三九
八〇—八五	八	二	〇、〇二五〇〇

第四節 結果ノ一

死亡程度表ノ示ス絶對數ノ總計ヲ算定スルコトニ比スレハ全梅毒材料ニ依ル實際ノ死亡率ト或ル種ノ死亡算定表ト比較スルハ死亡程度表ニ示ス所ノ絶對數ノ總計ヲ算定スルニ比シ遙ニ其ノ價値大ナルヘシ而シテ比較標準ノ表トシテハ一部ハ英國十七會社表ヲ採リ一部ハ「スカンディネビヤ」ノ材料ヲ採レリ英國表ハ其ノ作製ニ材料ヲ提供シタル會社カ料金制定ノ基礎トシテ制定シタルモノニシテ「スカンディネビヤ」表ハ「チーレ」教授ノ近時作成シタル普通料金ノ基礎ヲ爲ス所ノ死亡表ニシテ今三者ノ比較ヲ表示スレハ左ノ如シ

甲、普通料金ニテ保險シタルモノ

年 齡	豫 定 表	實 際 死 亡	豫定表ニ對スル實際死亡ノ割合
スカンディネビヤ表	英國表	英國表	英國表

年	齡	豫定表	英國表	實際死亡	豫定表ニ對スル實際死亡ノ割合
二〇	三〇	六	一二	一四	一一六、七
三〇	四〇	四六	七五	七六	九六、二
四〇	五〇	八七	一一九	一六〇	一三四、五
五〇	六〇	八一	九六	一二四	一二九、二
六〇	七〇	三七	四〇	五三	一三二、五
七〇	八〇	一一	一一	一一	一〇〇、〇
二〇	八〇	二六八	三五七	四三八	一二二、七

乙、特別料金ヲ以テ保險シタルモノ

年	齡	豫定表	英國表	實際死亡	豫定表ニ對スル實際死亡ノ割合
二〇	三〇	一四	二五	二三	九二、〇
三〇	四〇	六〇	一〇五	一一八	一一二、四
四〇	五〇	七一	九八	一四五	一四八、〇
五〇	六〇	五〇	五九	九三	一五七、六
六〇	七〇	二七	二九	三八	一三一、〇
七〇	八〇	五	五	六	一二〇、〇
二〇	八〇	二二七	三二一	四二三	一三一、八

丙、全材料

年	齡	豫定表	英國表	實際死亡	豫定表ニ對スル實際死亡ノ割合
二〇	三〇	二〇	三六	三七	一〇二、八
三〇	四〇	一〇四	一八〇	一九二	一〇六、七
四〇	五〇	一五三	二一〇	三〇一	一四三、三
五〇	六〇	一二八	一五〇	二二二	一四一、三
六〇	七〇	六三	六八	九〇	一三二、四
七〇	八〇	一五	一六	一六	一〇〇、〇
二〇	八〇	四八三	六六〇	八四八	一二八、五

梅毒患者ハ他ノ被保險者ニ比スレハ著シク其ノ死亡率高シ尙本表ニ依リテ見ルニ委員會カ曩ニ「スカンディネビヤ」及「フヒンランド」ニ於テ或ル理由ノ爲ニ契約ヲ拒絶シ又ハ特別料金ヲ以テ契約ニ應シタル者ノ死亡率ニ關シテ公ニシタル所(エーレンツァイグ)年報一九〇〇年號ニ於テ余ハ之ヲ公ニシタリ)ト對照スルニ能ク次ノ點ヲ明ニスルヲ得ヘシ

- 一、通常料金ヲ以テシタル梅毒患者ノ死亡率ハ或ル理由ニ依リ特別料金ヲ以テシタル者ノ死亡率ニ比スレハ其ノ程度遙ニ高シ換言スレハ前者ハ後者

ニ比シ非常ニ危険性ヲ帶フル者アリ

二、特別料金ヲ以テシタル梅毒患者ノ死亡率ハ一般ノ理由ニ依リ特別料金ヲ以テシタル者ノ死亡率ニ比シ之亦遙ニ其ノ度高シ殊ニ其ノ程度ハ五十歳以上ニ及ヒテ甚シキヲ見ル

三、梅毒患者ヲ普通料金ヲ以テスルコトハ他ノ被保険者ノ地位ヲ危クスルコトナシト言フヘカラス去レハ今委員ノ提議シタル十七會社表ニ比シテ二十又ハ五十%ノ過多死亡アルモノ危険階級ト對照シ見ルニ從來通常料金ヲ以テ保險ニ對セラレタル者ハ委員會ノ所謂僅少増加ニ應セサルヘカラス之ニ反シ從來ヨリ特別料金ヲ課セラレタル者ハ委員會ノ所謂多大増加ニ應セサルヘカラサルナリ

研究ノ結果茲ニ至レルハ誠ニ遺憾ナリ尙是等危険團體ヲ「チイトレ」教授ノ「スカンディネビヤ」表ニ比スルトキハ其ノ遺憾ハ殊ニ大ナリ即チ普通料金被保険者タル梅毒患者ノ死亡過多ハ六十三%特別料金被保険者タル梅毒患者ノ死亡過多ハ八十五%全材料ニ於テ七十五%ノ死亡過多ニ達セルヲ見ル

第五節 結果ノ二

然レトモ以上ノ具體的結果ハ未タ十分ナリトセス實用上ノ必要ニ應セントセハ死亡超過ヲ掛金表ニ一致セシムルコトニ注意セサルヘカラス從テ梅毒ニ對スル相當ノ保險ヲ制定セサルヘカラス去レハ吾人ノ計畫ノ第一着ハ死亡率ヲ定メ之ヨリ死亡率脫退率並ニ基礎表ヲ作製スルニアリ

假リノ整正ハ「ゴンベルツ」「マーケハム」氏ノ方式ニ依リ熟知セラレタル方法 [Log (1-g)]ヲ方式ノ常數ヲ計算スルモノヲ採用セリ整正ノ結果ハ次表ノ如シ

死亡件數‰表 (死亡率)

年 齡	整 正 セ サ ル モ ノ	整 正 セ ル モ ノ
二五	四、九八八	四、八五四
三五	九、一〇六	一〇、四五八
四五	一九、六八七	一八、七五四
五五	二六、三一六	三〇、九九二
六五	七一、四二九	四八、九五三
七五	八六、八九五	七五、一一四

實際死亡率ヲ整正シタル表ト比較スルトキハ全體ノ合計ニ於テ極メテ吻合セル

ヲ見ル即チ計算ニ依ル死亡數ハ八百五十三ニシテ實際上ノ數ハ八百四十八ナリ然レトモ各年齡群ハ著シキ相違ヲ生セリ去レハ整正ハ未タ理論上充分ナリト言フ能ハス委員ハ材料ノ充實シタル場合ヲ期シテ全然學理的ナル整正法ノ採用ヲ計畫シツ、アリ

實際ノ死亡率ヲ比較死亡率表ト比較スルニ大體ニ於テ全然合致セサルヲ見ル即チ豫定死亡ハ八百五十三實際死亡ハ八百四十八ナリ然レトモ個々ノ年齡階級ニ於テハ時々少ナカラサル懸隔アルヲ見ル從テ此ノ比較ハ理論上充分正確ナルモノト見ル能ハサルニ似タリ委員ハ全材料ノ調査ヲ遂ケ以テ一日モ早ク完全ナル學理的比較ヲ試ミントス

第六節 實際上ノ結果

然レトモ梅毒患者ノ保險ノ方法ニ於テ變更ヲ施シ基礎表ト料金ノ割合カ整正セサル死亡表ニ依ルトキハ一致スル様變更ヲ施スコト緊要ナルヘシ例ヘハ曩ニ述タル如ク整正シタル表ハ實際ト甚タ好ク一致例ヘハ年四分ノ利率及從來ノ「スウェーデン」諸會社ノ用ヒタル割増料金ヲ基礎トスレハ三十歳ニテ加入シタル死亡保險ニ對スル一ケ年ノ總保險料ハ

平均セサル表ニ依レハ千ニ對シ二十三、三九「クロイン」

比較シタル表ニ依レハ千ニ對シ二十四、三五「クロイン」

又混合保險及混合給資保險カ(七十歳迄ノ)三十歳加入ノ場合平均セサル表ニ依レ

ハ千ニ對シ三十一「クロイン」

平均シタル表ニ依レハ千ニ對シ三十一、六四「クロイン」

繁雜ヲ避ケル爲ニ右ノ如クシテ梅毒患者ニ對スル保險料金ヲ通常料金(英國十七會社ノ表ニ依リ定メタル)ト比較スルニ死亡保險料金ノ拂込ハ一回タルト或ハ有期タルト又ハ終身タルトヲ問ハスニ在リテハ梅毒患者ノ料金ハ今日ノ料金表ニ依リ五歳又ハ六歳ノ年齡割増ヲ以テスル場合ト全然一致ス混合生命保險及混合給資保險ノ場合ニ於テ亦同シ

「スウェーデン」生命保險醫組合ハ本問題ノ研究後「スウェーデン」ニ於ケル各保險會社ニ對シ左ノ如キ意味ノ意見書ヲ送付セリ

梅毒ノ保險ニ在リテハ其ノ感染經過シタル期間、年齢及有期又ハ死亡保險ノ如何ニ關セス少ナクモ七ケ年ノ年齡割増ヲ以テ最低限度トスヘキナリ而シテ料金拂込カ一回タルト有期タルト終身タルトヲ問ハス其ノ原則ヲ適用シテ可ナ

而シテ該組合ハ混合生命保險混合給資保險ニ在リテハ年齡割増ヲ五ケ年ニスル
ト六ケ年ニスルトノ間ニ著シキ區別ナキヲ以テ計算ノ便宜上常ニ五年ノ割増ヲ
爲スヲ便トシ之ニ關シ更ニ記述シテ曰ク

混合生命保險混合給資保險ヲ以テ梅毒患者ヲ保險スル場合ニハ加入年齡ノ如
何ヲ不問五ケ年ノ年齡割増ヲ以テ最低限度トナスヘシト

斯クテ梅毒患者ヲ保險スル場合ニ關スル上述ノ方法ハ一般ニ「スウェーデン」私立會
社ノ承認スル所トナリ委員會ノ事業ニ加擔セサリシ者モ遂ニ之ヲ歡迎スルニ至
レリ

十七會社表ヲ基礎トシ年四分ノ利率ヲ以テ算出シタル上述料金表以外ノ普通保
險料金表ノ使用シタル會社ハ此ノ年齡年増ヲ其ノ會社自身ノ料金表ニ依リテ爲
サントシタリ要スルニ「スウェーデン」ニ於テ梅毒問題ニ關シ全然一致ノ行動ヲ取ル
モノト云フヘシ

尙委員會ノ事業ニ加擔シタル「フィンランド」會社モ其ノ梅毒保險ニ於テハ上述ノ
原則ヲ採用スルコト、ナレリ但シ「デンマルク」「ノールウェー」ノ委員モ亦其ノ母國ニ

同一方法ヲ採用センコトヲ約セリ

第七節 批評

茲ニ注意スヘキハ吾人ノ研究方法ト其ノ結果トニ對シ數學者又ハ統計學者ノ方
面ヨリ何等ノ評論ヲ與ヘサルコトナリ只今日迄反對ノ意見ヲ漏シタルハ獨リ醫
師社會ナリ彼等ハ曰ク梅毒カ死原因トナルコトハ極メテ稀ナリ去レハ保險ニ當
リテ斯ル患者ノ待遇ヲ酷ニスルハ甚不當ナリトナスモノナリ

然レトモ吾人研究ノ目的ハ決シテ梅毒ノ死亡原因タル價值ヲ明ニセントシタル
ニアラス人類ノ命數ニ對スル梅毒ノ作用ヲ明ニシタルモノニシテ其ノ直接死亡
原因ノ如キハ吾人ノ餘リニ意ヲ用ヒサリシ所ナリ

死亡ノ場合ヲ分拆スルモ梅毒カ其ノ作用ヲ有機體ノ全身ニ及シ或ハ傳染病其ノ
他ノ疾患ニ對スル有機體ノ抵抗力ニ及ス作用ニ就テ明確ナル概念ヲ得ル能ハサ
ルハ其ノ所ナリ只斯ノ如クシテ吾人ハ死亡率ノ上ニ及ホス影響ヲ明ニスルヲ得
而シテ此ノ影響ノ如何ヲ定ムルコトハ實ニ吾人ノ目的ナリシナリ

吾人ノ研究結果ニ對シ批評ヲ加ヘタル醫學者中特ニ茲ニ述フル必要アルハ「サロ
モンゼン」博士ナリトス博士ハ吾人ノ研究ノ結果「スウェーデン」諸會社ニ於テ梅毒保

險ニ應用スルニ至レル保險方法ニ對シ反駁ヲ加ヘタリ余ハ博士カ醫學的見解ヨリシテ吾人ノ研究結果ニ對シテ爲シタル攻撃ノ價值ヲ無視セントスル者ニアラスト雖モ茲ニ博士ノ試ミタル駁論ノ要點ニ關シ少シク答辯スルノ義務アリト信ス

博士ハ本問題ノ解決ニ際シ此ノ種ノ梅毒患者ニ適スル處置ヲ取ルコトニ何等ノ意ヲ用ヒサリシトノ點ヲ非難シ同時ニ梅毒患者ノ死亡率減少スルニ恰適ナル方法トシテ「フルフニエ」氏ノ方法ヲ推獎セリ委員ハ材料ノ取扱ニ際シ此ノ點ニ顧慮スルノ利益決シテ鮮少ナラサルコトヲ認ムルニ於テ人後ニ落ツルモノニアラス然モ之ヲ爲スコト絶對ニ不可能ナルヲ如何セン蓋シ醫家ノ證明書ハ患者ノ取扱ニ對シテ全然何等ノ記載ヲモ爲サ、リシナリ加之患者ヲ厚遇スルヤ否ヤハ主トシテ個々の問題ニシテ此ノ點ニ關シ統計的材料ヲ作ランコト至難ノコトニ屬ス

博士ノ論駁ニ對シテ答フルノ目的ヲ以テ一ノ研究ヲ爲シタリ其ノ方法トシテ材料ヲ二段ニ分チ一ハ病毒感染カ千八百七十九年以前ナリシモノ他ハ千八百八十年以後ニ感染シタルモノトナセリ今之カ研究ノ結果ヲ示セハ左ノ如シ

死亡率 (千分率)

年 齡	七十九年以前感染	八十年以後感染
二〇—三〇	八、七五	七、九三
三〇—四〇	一一、五七	八、一九
四〇—五〇	一八、六五	一二、九八
五〇—六〇	二八、〇〇	四〇、八七

本表ニヨリ之ヲ見ルニ四十乃至五十年ニ至ル年齡階級ニ在リテハ後者ノ死亡率ハ前者ニ比シテ稍低ク五十乃至六十歳ノ者ニ在リテハ全ク反對ノ現象ヲ示セリ然レトモ千八百八十年以後ニ感染シタル者ノ死亡率低キコトカ「フルフニエ」ノ方法ニ基クトナスハ當ヲ得タルモノニアラス蓋シ死亡率ハ獨リ年齡ノ進ムト共ニ増加スルノミナラス保險期間ノ進行ニ伴ヒ亦増加スルモノニシテ此ノ増加ハ先ニ感染シタル者ニ於テ大ナルハ自然ノ理ナリ上表ニ示ス所ニ依レハ以上論スル所ニ關シ博士ノ見解ハ何等裏書セラル、所ナシ

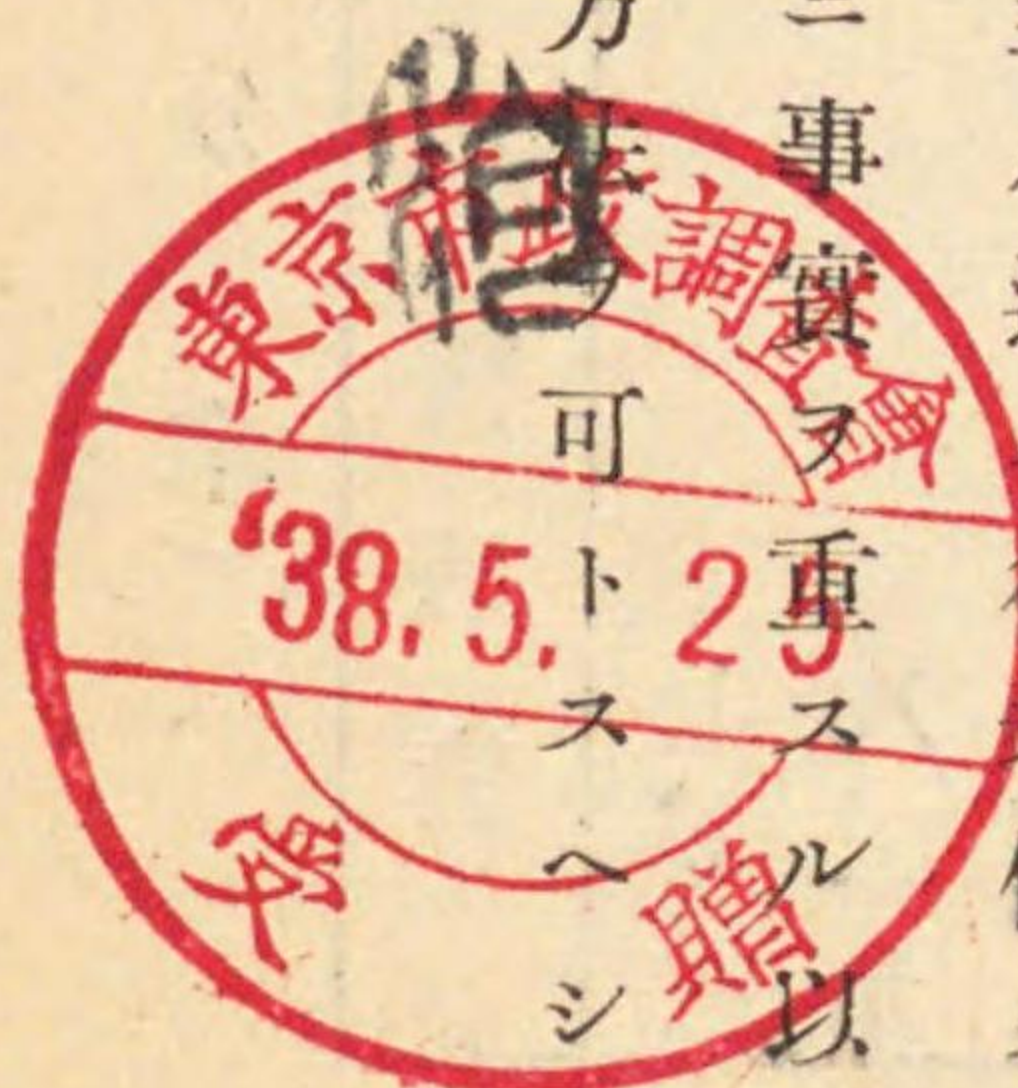
博士ノ第二ノ論難ハ吾人ノ研究及其ノ結果ニ對スルモノニアラスシテ寧ロ從前「デンマーク」其ノ他ノ「スカンディネビヤ」諸國一般ニ採用セル方法即チ感染後一定ノ

期間三年乃至五年ヲ經過シタル患者ニ對シテノミ行ハレタル方法ニ對スルモノ
 ナリ博士ハ梅毒患者ヲ保險セントセハ可成感染後速ニ爲スヲ以テ有利ナルモノ
 トシ殊ニ其ノ初年ハ危險少ナリトナシタリ然レトモ此ノ點ニ關シテ統計ハ何等
 ノ教フル所ナキナリ試ニ吾人ハ調査材料ヲ感染後五年以内ニ保險セラレタル者
 ト然ラサル者トノ二種ニ區別シテ其ノ死亡表ヲ檢定セシニ其ノ結果左ノ如シ

年 齡	死 亡 率	
	五 年 内 ノ 加 入	五 年 以 後 ノ 加 入
二〇—三〇	八、二八	六、九〇
三〇—四〇	一〇、二一	九、六二
四〇—五〇	一九、五九	一五、五三
五〇—六〇	二三、七八	二八、四六

本表ニヨリ之ヲ見ルニ死亡率ハ五〇乃至六〇ノ年齢階級ニ至ル迄ハ後者低ク而
 モ此ノ事實ハ博士ノ主張ト反對ノ傾向ヲ有スルモノナリ故ニ事實ヲ重スル以上
 寧ロ従前ノ如ク感染後一二年ヲ經過シタル患者ヲ採用スル方

保險領域並特別危險割増論 終



明治四十五年一月廿五日印刷
 明治四十五年一月三十日發行

郵便貯金局

東京市京橋區鈴木町二番地

印刷者 石丸鶴吉

東京市京橋區鈴木町二番地

印刷所 東亞印刷株式會社

電話京橋

二二四番
 二二五番

卷二 二五卷
二三四卷

明編 東亞伯羅利左會集

東京市京橋區橋本町二番地

明編 香 杯 火 刺 吉

東京市京橋區橋本町二番地

瀧 貝 類 金 鼠

明治四十五年一月三十日發行

明治四十五年一月廿五日印刷

